

## 5 議事

### 【片桐総務課長】

運営協議会の委員の皆様におかれましては、お忙しい中ご足労くださりまして誠にありがとうございます。

私は委員長選出までの間、進行を務めさせていただきます。総務課長の片桐でございます。よろしくお願いいたします。

なお、本日机の上には議事録作成のための音声録音用のマイクを設置させていただいております。発言の際はマイクを手にお持ちいただく必要はございませんので、着席されたままご発言をお願いいたします。なお、会議中写真を撮影させていただきますので予めご承知下さいますようお願いいたします。

では、ただいまから令和2年度鶴岡工業高等専門学校運営協議会を開催させていただきます。

初めに校長の高橋よりご挨拶申し上げます。

### 【高橋校長】

皆さんこんにちは。本日は足元の悪い中、また師走のお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。



高橋 幸司  
校長

特にこの庄内地区では昨今新型コ

ロウイルスの感染者がかなり多く出ておまして、その意味では皆様方にご足労いただくのもためらうような事態ではございましたけれども、何しろこの協議会が本校にとりまして一番の外部評価委員会ということで、開催しないわけにはいかないということで、皆

さんにご足労いただきました。よろしくお願いいたします。

本日は、我々副校長それから事務部長はじめ、全員で皆様方に特に本年度の活動をご理解いただくように丁寧に説明させていただくつもりでございます。本校がますます発展するためでございますので、ぜひ奇譚のないご意見をいただければ大変嬉しく思います。本日はよろしくお願いいたします。

### 【片桐総務課長】

次に、校長の高橋より委員の皆様をご紹介させていただきます。

(高橋校長から運営協議会委員の紹介)



### 【片桐総務課長】

本校出席者の紹介は上條副校長から順に一人ずつ自己紹介をお願いします。

(各自自己紹介)

### 【片桐総務課長】

その他に本校の各コース長、センター長、事務職員が列席させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは本日の日程をご説明いたします。お配りしております議事の裏面をご覧ください。

ただいま「日程及び配付資料の説明」のところを説明させていただいております。この後、委員長の選出、その後、議事に入りまして学校の概要説明、それから基準1から3ま

での説明の後質疑応答とさせていただきます。休憩を挟みまして、基準4から選択的評価事項Bまでの説明をさせていただき、質疑応答を行わせていただいて、最後に委員の方から総括、まとめ等をお願いしたいと思っております。

大変タイトな時間配分となっておりますが、議事の進行にご協力をお願いいたします。

次に配付資料の確認をお願いいたします。議事の下の部分に配付資料の一覧を付けてございます。資料の1—1から資料8—4までとなっております。個々の説明につきましては割愛させていただきます。また外部委員の方々におかれましては、カレッジプロファイルをはじめいたします冊子ものの資料も参考として配付させていただいております。もし過不足等ございましたらお知らせいただければと思います。

それでは、次第に従いまして委員長の選出に入らせていただきます。本日の配付資料の中で資料2—1がございますけれども、委員長につきましては運営協議会規程の第4条第1項の規定によりまして委員の互選となっております。事務局から早坂委員をお願いしたいと存じますけれども、いかがでしょうか。

(異議なし)

**【片桐総務課長】**

ありがとうございます。

それでは、委員長からご挨拶をお願いいたします。

**【早坂委員長】**

委員長に任命されました、早坂と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。

今年で2回目なものですから、少し私も考えてきたのでございますけれども、校長先生の方針でございますが、研究する高専・地域

に貢献する高専・国際通用性を有するエンジニアを育成する高専、この三つの柱のもとに、現在、教育をされているわけですが、今年新型コロナウイルスの状況の中で、

非常に世の中やはり大変な変化を起こしているのではないかと思うのです。その中でやはり高専の生徒の中でもどういう心理状態になっていらっしゃるのか、そういう変化というものをごどういうふうにご捉えられているのか、それと指導する先生方がそれに対する対応の仕方、今までとは違うのではないかなと私なりに感じておりますが、その辺のところ、今年の皆さんの結果報告といいたいまいしょうか、中間報告なっていると思いますが、その辺のところも加味した上でお話を承れば非常に嬉しいなと思っておりますので、一つその辺を加味しながらこれから皆さんのご意見を伺いながら、また委員の人たちの最後に色々とお話があると思っておりますので、それを加味しながらこれから進めて参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いしたいと思います。

**【片桐総務課長】**

では委員長、議事の進行をお願いいたします。

**【早坂委員長】**

それでは早速進行の方に入らせていただきます。

議事に入りますが、最初に運営協議会の趣旨説明を事務局からお願いいたします。

**【片桐総務課長】**



早坂 剛  
株式会社エル・サン 代表取締役会長

資料の2-2をご覧ください。本校の自己点検・評価に関する実施基本方針となっております。本校の自己点検・評価はこの資料2-2の方針に基づいて実施しております、主に令和元年度実績に基づく自己点検評価結果を記載いたしましたものとし、本日お手元に配付しております資料3「自己点検評価表」、こちらにございます。

これから各担当が基準1から順にそれぞれの観点におけます令和元年度の実施状況等をご説明申し上げますので、各点検項目に沿った教育及び運営等がなされているかの評価をお願いいたします。

本協議会終了後、本日の説明、それからお配りしております資料等に基づきまして、資料3の右側の黄色で塗った部分に5段階評価で評点、それから特に見直しや改善が必要と思われる項目を中心に、「委員コメント欄」にコメントの記載をお願いいたします。なお、コメントは全ての欄に記載いただく必要はございません。この資料のエクセルデータは別途事務局から電子メールでお送りいたしますので、大体10日ぐらいを目処にご記入いただき返送くださいますようお願いいたします。以上です。

#### 【早坂委員長】

それでは、ただいまの何かご質問ございませんでしょうか。

なければ、学校概要の説明に入らせていただきます。高橋校長よりよろしく申し上げます。

#### 【高橋校長】

では私の方から学校概要を説明させていただきます。

本校の10年ビジョンということで6年ほど前に策定されたものでございます。

**魅力ある学校として鶴岡高専の10年ビジョン**

**地域から羽ばたくグローバルエンジニアの育成**

- ◆研究する高専
  - ・研究と教育は両輪 (K-ARC)
  - ・研究成果の教育へのフィードバック
- ◆地域に貢献する高専
  - ・地域を知ること (講義とCO-OP教育)
  - ・卒業生の地元就職
  - ・融合複合技術分野へのアプローチ
- ◆国際通用性を持ったエンジニアを育成する高専
  - ・海外研修、学会発表 (国際交流支援室)
  - ・英語力強化

↓

①学科再編、②研究と教育の連携

2

魅力ある学校として鶴岡高専の10年ビジョンということで、委員長からも説明がございましたが、本校は研究する高専を標榜しております、メタボロームキャンパスにK-ARCという研究所を設け、研究と教育を両輪であるというふうに定義付けて進めております。また、地域に貢献する高専、このためには地域を知ること第一と考えまして、講義は地域の経済人の方々にお願いし、それから学生たちは企業製造業等でCO-OP教育を行うことに重点をおいております。それから三つ目の柱としては国際通用性を持ったエンジニアを育成するというので、海外研修等は非常に多くさせていただいております。

次に本校の教育の特徴でございますが、1年次は一括で採ると。これは後程説明いたし

**本校の教育の特徴**

- ◆特色1 1年次混合学級で創造工学の基礎を幅広く教育した後、2～5年次で学生に最も適した専門教育を実施
- ◆特色2 専門知識の定着と活用力を涵養するため、アクティブラーニングを導入
- ◆特色3 地域ニーズ対応型教育研究プロジェクトによるエンジニアリングデザイン能力を育成
- ◆特色4 持続可能な活気あるコミュニティの確保に向けたアントレプレナーシップを育成  
地域コミュニティ学、総合工学の新規開設
- ◆特色5 アドバンスドスチューデント制度によるグローバルエリートエンジニアを育成  
7年制一貫教育の試行

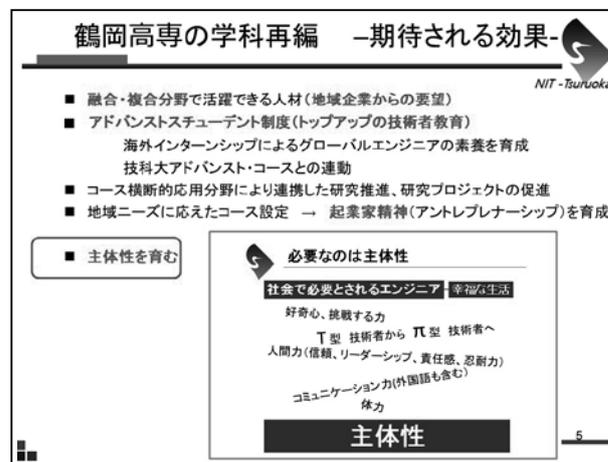
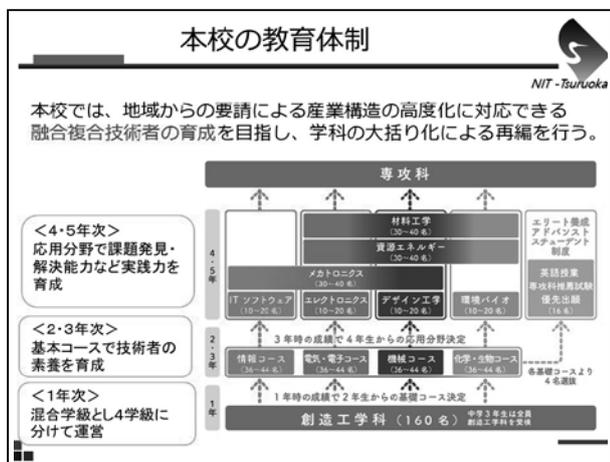
ます。そこで創造工学の基礎を幅広く教育すると。そして2番目の特徴としてアクティブラーニングを導入する。3番目として地域ニーズ対応型の教育研究プロジェクトを推進する。4つ目としてやはりベンチャー企業を出したいということで、アントレプレナーシップを育成しております。5つ目の特徴がアドバンストスチューデント制度でございます。これらにつきましては後程詳しく説明いたします。

本校の教育体制でございますけれども、まず本校では地域からの要請に応じて、これはアンケート調査をさせていただきまして、産業構造の強度化に対応できるような融合複合型の技術者の育成を目指しております。その第一歩として1年次は混合学級として、4学級に単に分けて運営させていただき、この1年次のときに化学は何か、機械は何か、電気は何か、情報は何かを叩き込みます。その結果、2年次になって各基本コースに分かれます。ここでの1番の大きな成果と申しますのは、昔は最初からこの情報コース、電気・電子、機械それから化学・生物と分けて入学をさせていただいてございますが、1年生のときにそれぞれのコースの特徴を教えるがために、大体女子学生は30名ほど毎年入ってま

いますけれども、以前は機械コースに入学する学生はほとんどおらなかったのですが、この1年次に混合学級として教育することによって、3割の女子学生が機械コースに進学するようになりました。これは非常に大きな特徴であろうと思っています。

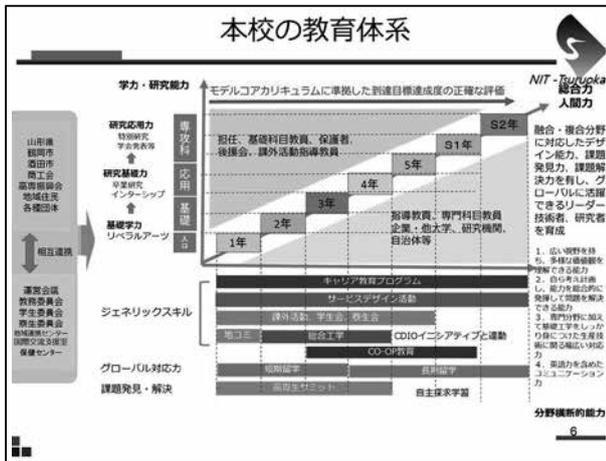
これで2年3年とこの基本コースで各専門を教えまして、4年5年になったとき、今製造業では電気なら電気だけの知識があればやっていけるというものではございません。電気でありながら機械、化学の知識あるいは逆に化学でありながら電気や機械の知識、そういったものが必要になってきます。そのためにそれぞれ四つのコースそのままの四つの分野に加えて、それぞれ三つの分野が融合した材料工学、資源エネルギー、メカトロニクスの3分野を加えた7分野に分けるということをやって卒業させます。

この学科再編で期待される効果はまずはアドバンストスチューデント制度、これは後程紹介いたしますが、各コースの1割の学生、ですから合計16名の学生をこのアドバンストスチューデントに認定して、これらの学生たちに海外との共同研究先等を経験させるために長期の留学をさせて、グローバルな人材を育成するなどということも行っております。

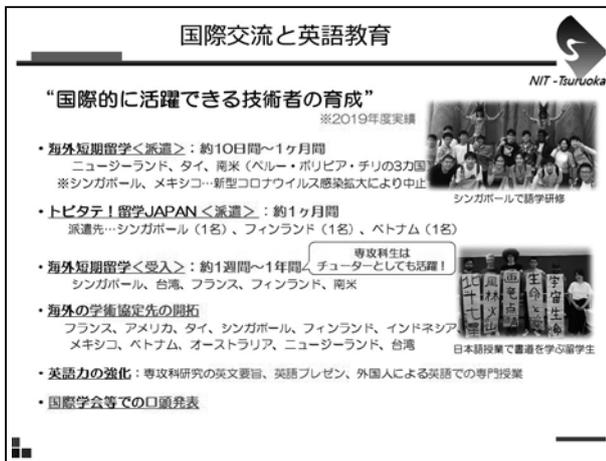


それから地域ニーズに応えたコース設計によりまして、アントレプレナーシップを育成する。特に本校で考えておりますのは主体性を育むということになっております。

本校の教育体系でございますけれども、5年間本科で学んだ後、専攻科を2年間行くわけでございますが、最初はジェネリックスキル、これがやはり高専の1番の特徴だと思っております。人間力を高めるということに重点を置いております。グローバルな対応力それから課題発見解決型の力をつけさせるようにしております。



今度は国際交流と英語教育でございますけれども、国際的に活躍できる技術者ということで、短期留学でございますとか「トビタテ！留学 JAPAN」の仕組みであるとか、これは



約1ヵ月間行くものでございますけれども、こういうものを学生たちに提示して、今年は残念ながら行けませんでしたけれども、毎年40名ほどの学生が留学をしております。それから受け入れとしては短期留学生それから海外の学術提携先の開拓ということで、10ヵ国を超える国との連携を果たしております。また英語力の強化ということでTOEICの受験等を本校の中でできるような仕組みを作りまして、学生たちがそういう教育を受けやすい体制を整えております。それから国際会議

### 海外派遣・受入～国際交流～

＜派遣＞短期、中長期ともに増加傾向  
(※2019年度実績)

- 短期派遣が定着し、多くの学生が低学年時に英語研修・交流型を体験。
- 高学年では協定校の研究室に配属される中長期の研究型を希望する学生が増加。

＜受入＞留学生受入の定着化

- 毎年フランス、フィンランド、台湾、シンガポールから留学生を受入れている。
- 2年連続して鶴岡高専に留学を希望する学生がいるほど環境が整っている。

学生の国際マインドが定着し、  
双方向での交流継続

- SNSによる交流、長期休業に互いを訪問し友好を深めている。

※新型コロナウイルス感染症拡大のため、2019年度春季留学の一部を中止した。

Year	中長期	短期
2014	50	31
2015	60	63
2016	37	40
2017	38	60
2018	71	75
2019	14	14

Year	中長期	短期
2014	20	18
2015	24	41
2016	16	44
2017	50	46
2018	39	48
2019	37	37

等での口頭発表を非常に積極的に行っております。これがその国際交流の実績でございますけれども、派遣学生はこの程度、それから受け入れ学生はこの程度となっております。

それで、海外留学プログラムの特徴でございますけれども、シンガポールやマレーシアに行くということが主だったのでございますが、4年ほど前からニュージーランドを新たな留学先として開拓いたしました。これは学生たちから、やはりシンガポール、マレーシア等の英語は本当のネイティブな英語ではないと、もっと母国語として英語を使っている国に行かせてもらいたいということで、ニュージーランドを開拓させました。2週間ぐらいが大体の期間でございますので、できるだ

**鶴岡高専 海外留学プログラム 2019**

**短期 シンガポール**

2020年3月上旬～3月下旬  
全学年対象 20名程度

協定校ニースで2週間の短期留学。英語と他民族文化を体験。現地学生とも仲良く暮らせる。

費用：20万円

**短期 ニュージーランド**

2020年3月上旬～3月下旬  
全学年対象 20名程度

協定校マスカウ工科大学で2週間の技術英語を学習。また地理地理学学校で世界中の学生と英語研修。現地学生と交流。

費用：35万円

**中長期 オーストラリア ニュージーランド ベトナム・タイ・台湾**

夏休み・春休み（予定）  
4・5年生、専攻科対象 12名

研究室に配属され、協定の大学で研究を行う。37日以上滞在で2ヶ月分のJASSO奨学金受給。

費用：14万円

**他主幹 南米・メキシコ**

春休み 10～20日間  
4・5年生、専攻科対象 7名程度

協定校を訪問し、英語・スペイン語研修、実習、学生交流、工場見学、世界遺産見学など。

費用：35万～55万円

その他 技科大、他高専の留学制度を活用！

け時差のないところで母国語が英語の国を探して、ニュージーランドを開拓させていただきました。それから、中長期としてはオーストラリア、ニュージーランド、ベトナム、タイ、台湾、それから山形大学が主になって行っているところに我々も加えさせていただいておりますが、南米メキシコにも行かせております。

それで、海外の提携校でございますが、台湾にある長庚大学、これは私立大学ではトップの大学で、この石油化学会社が母体になっている大学でございます。台湾のGDPの5%程度を占める大きな会社がバックに付いた大学と提携を結んでおります。それから最近重点をおいておりますのが、タイにありますラジャマンガラ工科大学でございます

**新たに3校と学術交流のための包括連携に係る協定を締結**

**長庚大学（台湾）** 2018年9月締結

- 台湾大学ランキングでベスト10、私立大学ではトップ。
- 台湾のテクノロジー発展を支える高い研究力を保持。
- 教育者として学生に国際的な視野を育てることが重要な責務。
- 協定締結により、双方の学生や教職員の相互交流、共同研究、共同セミナー等を通じて国際交流の進展



長庚大学にて共同シンポジウム開催 (2019年3月)

**ラジャマンガラ工科大学** ランナー校（タイ）

2019年5月締結

ラジャマンガラ工科大学訪問



**ニューカッスル大学**（オーストラリア）

2019年1月締結



て、ここと提携を結んで、例えば環境問題であるとか、そういったもので共同研究を進めたいと思っております。また、オーストラリアとのニューカッスル大学とも提携を結んでおります。

ここからはトピックスになりますが、JA全農山形、これはマスコミの方でいろいろと報道していただきましたが、KOSEN版の簡易ウェザーステーション、ここにあるものでございますが、これを七つほど、三川町に設置させていただいて、データ取りを行っております。ゆくゆくは庄内地域の農家等にこのウェザーステーションが広く普及することを考えております。

**JA全農山形との研究交流及び地域貢献に関する協定を締結**

- 全国農業協同組合連合会山形県本部との間で、スマート農業の普及・推進などの農工連携を図ることを目的として、研究交流及び地域貢献に関する協定を締結
- 研究開発の向上や山形県農産物のより適正な栽培管理に向けた実証、農学・工学連携全般及び地域貢献の推進
- 全国高専農業ICTネットワークで開発した低価格の環境センサーシステム「KOSEN版簡易ウェザーステーション」を使って、三川町にあるJA全農山形の園芸産地拡大実証研修農場で栽培管理のサポートの実証実験
- 2018年度～共同研究、現在も継続中



続きまして、岡谷鋼機株式会社でございますけれども名古屋に本社のある350年を超える歴史ある会社でございます。2年間にわたりまして各1,000万円の人材育成寄附をいただきまして、それで先程申し上げたウェザーステーションであるとか、あるいはビジネスモデル、これらをやって、あとは委員長でいらっしゃる早坂様の松ヶ岡ワイナリーにもこのウェザーステーションを設置させていただいたりしております。左側が岡谷社長でございます。株式会社新池田という会社が鶴岡市にありますが、岡谷鋼機が力を入れて

## 岡谷鋼機株式会社寄附事業



- 2018年、2019年度各年1000万円の人材育成寄附事業
- KOSEN版ウェザーステーションの実用化・ビジネスモデル化に向けた装置の改良や松ヶ岡ファイナリー用ぶどう畑環境モニタリングシステムの構築など、農業ICT（情報通信技術）の研究や防風雪柵の実用化に向けた研究等の実施地域、
- 全国高専と連携しつつ、地域に貢献するIoT人材の育成のため、全力で本事業を推進

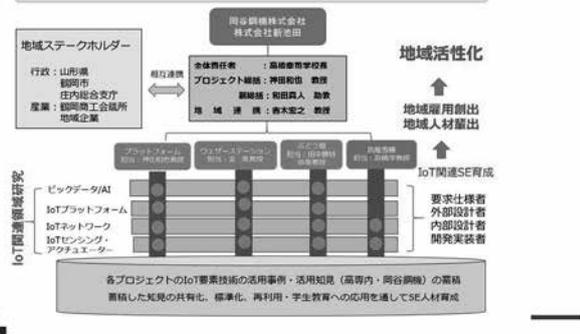


いる同社の小会社で、その社員だった右側の杉戸様が社長として勤めていた時期に本校と岡谷鋼機様を結び付けてくれたということでございます。この寄附事業では四つのプロジェクトが進んでおりまして、2年間大変頑張らせていただきました。

## 岡谷鋼機株式会社寄附事業



デジタル(IoT/ビッグデータ/AI)をキーワードとし、高専内プロジェクトでデジタル活用事例共有・事例研究を行い、IoT関連のシステムエンジニア(SE)を育成する。



また、地方銀行との連携ということで、山形銀行との連携強化をしております。覚書を締結させていただいております。特に山形銀行の連携の県内企業と鶴岡高専生との交流会等を行っております。具体的な成果としては県内就職の内定が出ております。

それから株式会社野村総合研究所と人材育成で連携強化ということで、野村総研の此本社長様と私とでMOUを締結させていただきました。この成果としてSDGsの未来都市に

## 地方銀行・山形銀行との連携強化



- 業務提携に関する協定書に係る覚書を締結
  - ①技術向上を望む県内企業の仲介・斡旋
  - ②教員及び学生による県内企業の課題解決に向けた連携
  - ③学生の就業体験学習受入を希望する企業の紹介
  - ④新規採用を希望する県内企業の紹介の4項目が盛り込まれており、両者の連携を強化し、学生・学校と県内全域の企業をつなぐことで県内就職者の増加や企業の課題解決・技術向上を目指すことを目的としております。
- 鶴岡高専×山形銀行連携事業「県内企業と鶴岡高専生との交流会」を2回開催
- 現在、具体的な成果として県内就職内定



鶴岡市が選定され、我々もそれに対して協力をさせていただけるような体制を構築しております。

## 野村総研と人材育成で連携強化



- デジタル人材の育成と地域貢献活動における連携に関する協定を締結
- 株式会社野村総合研究所は、令和元年10月に、デジタル時代における新たな地方創生の取り組みを発表
- これからの地方創生においては、高い生産性が期待できる「ローカルレブ」に位置付けられる自治体を中心となって、「デジタルカバメント」を実現していくことが重要
- 本校は、鶴岡市・庄内地域の発展に必要な人材を輩出する機関として、今後は産学官をつなぐ人材の育成や地域産業のプラットフォーム形成を通じて、地方創生に貢献することが期待されています
- このような背景を踏まえて、この度、連携・協力して、デジタル時代における新たな地方創生の取り組みを加速させ、有為な人材を数多く輩出していくことを目指します。



それから昨年、廃炉創造ロボコンでの最優秀賞。課題をクリアできたのが唯一本校だけだったということで、非常にこれは晴れがま

## 廃炉創造ロボコンにおける最優秀賞・文部科学大臣賞受賞



- 2019年12月14日(土)～15日(日)に開催された第4回廃炉創造ロボコンにおいて、廃炉ロボコンチームが最優秀賞の文部科学大臣賞を受賞し、12月20日(金)に顧問の金帝演准教授とともに校長室を訪れ受賞報告を行いました。
- はじめに、テーブルの上からロボットの親機から分離した子機を地面に下降させ、デブリを模したボールを回収するデモ操作を行い、競技の時と同じように見事回収できました。



■ 今年度は12月10日(木)～12日(土)開催予定

しい出来事でごございました。デブリを模したボールやピンポン玉を回収して、それを持ち帰るといところまでできたのが本校だけということでありました。その前にデザコンと言ってありますが、全国高専デザインコンペティションで審査員特別賞を受賞しました。実は、この受賞が先程の廃炉創造ロボコンの2週間ほど前でごございまして、これは一時話題になったのですが、すぐに最優秀賞を獲得した廃炉創造ロボコンに話題を奪われてしまったということもございました。

**全国高専デザインコンペティションで審査員特別賞を受賞**

- 本校のAMデザイン部が、全国高等専門学校デザインコンペティション（デザコン）2019 AMデザイン部門で「審査員特別賞」を受賞しました。
- ロボット・プログラミングに続く高専生向け第3のコンテストと言われている大きな大会で、日頃学んだ学修の成果とデザイン力を駆使してより良い生活空間の創出に資する作品を競い合うものです。中でもAMデザイン部門は今話題の3Dプリンタを活用した3次元デジタル設計造形の技術で作品を競い合う部門です。全国大会は、12月7・8日の両日、東京の大田区産業プラザPiOを会場に開催



それからコロナ禍における地域貢献ですが、専攻科の1年生が3Dプリンターを使ってフェイスシールドを作り、鶴岡市立荘内病院に寄贈させていただきました。それから、尾花沢市にある株式会社最上世紀様と管楽器奏者

**コロナ禍における地域貢献活動**



専攻科1年生の3人が3Dプリンタ等を使って自作した感染防止用の「フェイスシールド」を鶴岡市立荘内病院に寄贈

酒田市定期船発着所において、学生が自作した改良型フェイスシールドの贈呈

工学と農学がつながる『野外出前授業』を実施しました。地産地消をテーマにした野外出前授業『羽黒こんにやく芋栽培の挑戦の話聞いてみよう』を開催

株式会社最上世紀様（尾花沢市）と「管楽器奏者用フェイスシールド」を共同開発

用のフェイスシールドを共同開発したりしております。

それから高専のファシリテーション講座ということで、やはり高専の教員が教育術を覚えなければならないということで、ファシリテーションの専門家の方に講師を依頼しまして、こちらに3日間おいでいただきました。

**鶴岡高専ファシリテーション講座**

- 教育の現在でもグループワークが増える中、教員のスキルアップを図るための講座
- 8月25日、26日、9月30日の3日間、教員10名が参加
- スキルアップと共に教員間の関係性改善



私以外の教員10名がこれに参加してスキルアップを図り、この後期から対面型の授業になっておりますけれども、そこでこのファシリテーションの技術を使った講義を進めております。

それから産学連携 with コロナでありますけれども、やはり地域企業と本校の学生、教員がZoomを使ってグループワークをすると、特に過日行われたこの講演会では、野村総研の社会システムコンサルティング部長でいらっしゃる神尾様においていただいております。その後本校の教員がファシリテーションの技術を使ってグループワークを行わせていただきました。

今後の展望でございますが、高専の研究拠点化の中核となる、これは着々と進んでおりますが特にバイオとスマート農業に力を入れてさらに進めていきたいと思っています。それから地域産業のプラットフォーム形成とい

## 産学連携 With コロナ

- 地域企業（鶴岡商工会議所技術者ネットワーク）様と本校学生・教員がZoom（Web会議システム）を使ってグループワーク実施
- 本校教員がファシリテータ、学生3名がグループワークに参加
- 産短大庄内校の生徒も参加
- 今後の新しい連携のカタチを提案



うことで、特に我々が力を入れたいのは同窓会ともっと緊密な連携をして地元の企業をバックアップしていきたいと思っております。

## 今後の展望

- 高専の研究拠点化の中核となる
  - バイオ研究開発拠点
  - スマート農業研究開発拠点
- 地域産業のプラットフォーム形成
  - グローバル化する地域企業への人材輩出
  - 同窓会と連携し、地域企業のバックアップ
  - 地域に必要とされる高専を目指す
  - ローカルハブとしてプラットフォーム形成
- 産学共同人材育成の更なる推進
  - 地域密着型CO-OP教育
  - 共同研究を通じた人材育成の推進

それから“ローカルハブ”、これは野村総研の言葉でございますが、この鶴岡地域もローカルハブとして海外との連携もとれるような大きな産業を起こしていきたいというふうに思っています。さらに産学共同人材育成のさらなる推進ということでCO-OP事業をいっそう深く進めていきたいというふうに思っております。以上で説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

### 【早坂委員長】

ありがとうございました。

続きまして、もうお二人から説明いただいた後にご質問いただきたいと思いますので続

けさせていただきたいと思っております。それでは、基準1「教育の内部質保証システム」及び、基準2「教員組織及び教員・教育支援者等」について、神田教務主事よりお願いいたします。

### 【神田教務主事】

今ご紹介いただきました教務主事の神田と申します。

これが評価基準の1から8、及び選択的評価事項のAとBでございますが、私からはまず、このうち基準1と2についてご説明申し上げます。



神田 和也  
副校長・教務主事

## 目 次

• 基準 1	教育の内部質保証システム	教務主事
• 基準 2	教育組織及び教員・教育支援者等	教務主事
• 基準 3	学習環境及び学生支援等	学生主事
• 基準 4	財務基盤及び管理運営	事務部長
• 基準 5	準学士課程の教育課程・教育方法	教務主事
• 基準 6	準学士課程の学生の受入れ	教務主事
• 基準 7	準学士課程の学習・教育の成果	教務主事
• 基準 8	専攻科課程の教育活動の状況	専攻科長
• 選択的評価事項A	研究活動の状況	地域連携センター長
• 選択的評価事項B	地域貢献活動の状況	地域連携センター長

## 【基準 1. 教育の内部質保証システム】



内容が教育の内部質保証システムということで、少し堅苦しい内容になるのですが、本校が教育機関として内部質保証システムが機能整備されているかというところの説明となります。

1-1

NIT-Tsuruoka

- 教育活動を中心とした学校の総合的な状況について、学校として定期的に学校教育法第109条第1項に規定される自己点検・評価を行い、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための教育研究活動の改善を継続的に行う仕組み（以下「内部質保証システム」という。）が整備され、機能していること。

4

ここにございますように、学校教育法第109条に教育の質の改善・向上を図るための教育研究の改善を継続的に行う仕組み「内部質保証システム」が整備され、機能しているかということが今非常に問われております。本校でも整備している状況のご報告となります。

本校では教育理念に「理魂工才」「自学自習」を掲げて、庄内地域をはじめ県内外に技術者を輩出することに努めております。そのためにもPDCAサイクルを構築して高専の定め

内部質保証システム

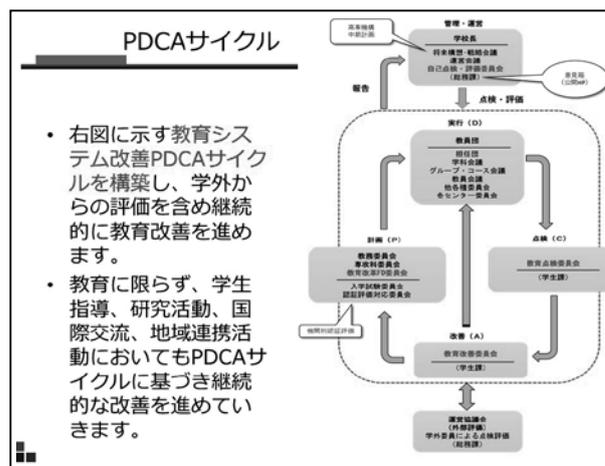
NIT-Tsuruoka

- 本校は、教育理念「理魂工才」「自学自習」を掲げ、優秀な技術者を卒業生として送り出すとともに、山形県庄内地区唯一の工科系高等教育機関として、地域社会への貢献に努めている。
- これを確実に実施しつつ本校の発展・向上を図るためには、教育、研究、社会連携や管理運営の継続的な点検評価及び改善が不可欠である。
- 業務改善PDCAサイクルを構築（実施計画等の策定）し、自己点検・評価を行う。
  - 「高等専門学校評価基準（機関別認証評価）」基準1~8の点検項目
  - 独立行政法人国立高等専門学校機構中期計画及び年度計画に基づく実施項目
  - 日本技術者教育認定基準
- 教育に関する項目のうち、3つの方針（DP、CP、AP）については、重点事項として教育システム改善PDCAサイクルを構築（実施計画等の策定）し、自己点検・評価
- 毎年度の自己点検・評価の実施並びに結果に関する報告書を取りまとめ、本校公式Webサイトに公表する。

5

る基準、また文部科学省の定める基準に沿って三つの方針、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを定めてPDCAサイクルを構築しております。さらにその自己点検を行ったものを公式Webサイトに公表しております。

これが本校におけるPDCAサイクルの概要となります。数式的な話になって細かいの



ですが、教務委員会、専攻科委員会等でプランを立てて、教員団で実行いたします。さらに本校では教育点検委員会を設けて実際行われている授業、また試験等に対して常に点検を行います。その点検された内容を改善委員会に回して、改善案を出してもらいさらにFD委員会等に対してブラッシュアップしてさらにPDCAを回します。本校の教育システムがしっかり回っているかという外部評価を今回の運営協議会という形でご確認、評価をいただければと思っております。本校の中では校長を中心に将来構想・戦略会議、運営会議、さらに自己点検ができていのかどうかを確認する自己点検・評価委員会を構築して教育システム改善、PDCAサイクルを構築しております。今本校でまだまだ教育にしているのですが、今後さらに先程学校長が申し上げたとおり研究活動や国際交流においても

PDCA サイクルを回して常に自浄能力のある組織に改善していきたいと思っております。

そのためにも定期的にアンケートなどモニタリングの実施をしております。在学生に対する教育改善に対するアンケートですとか、卒業生卒業時もアンケートを行っております。

**定期的アンケート（モニタリングの実施）**

NIT-Tsuruoka

- 在校生は毎年度、卒業生、卒業時や学外関係者（企業や有識者）定期的にアンケートを実施している。

**在校生「教育改善に関する学生アンケート」及び「学習時間・学修単位に関するアンケート」調査**

2対象者：本科1～5年生及び専攻科1・2年生  
3アンケート内容

以下の内容を中心に41項目について調査

- ・シラバスの理解度 ・授業の満足度 ・授業アンケートを受けての改善状況
- ・成績評価の妥当性 ・オフィスアワーの利用状況 ・試験・レポートの実施状況
- ・教室、実験室、図書館等教育施設の利用状況、満足度 ・将来の目標について
- ・授業時間以外の学習時間 ・学修単位の理解度

**卒業（修了）時・卒業（修了）後のアンケート調査**  
本校学習・教育目標に関する必要性、実用性等について調査

**企業（就業先）アンケート調査**  
卒業生・修了生で働いている点  
卒業生・修了生で不足している点  
貴社においては、採用にあたりTOEIC試験のスコアを考慮

7

また、就業先の企業様にもアンケートを調査しております。これが平成30年度末に実施した卒業生就職先のアンケートとなります。こちらについては評価をいただいているところは、少し字が小さくて見えづらいのですが、高い評価はいただいております。

**平成30年度 卒業生就業先（企業） モニタリング結果**

NIT-Tsuruoka

**卒業（修了）生就業先アンケート**  
本校卒業生・修了生の働いている点

● 働いている点  
● 働いていない点

1 専攻科 28  
2 専攻科 4  
3 専攻科 3  
4 専攻科 3  
5 専攻科 22  
6 専攻科 22  
7 専攻科 18  
8 専攻科 18  
9 専攻科 18  
10 専攻科 18  
11 専攻科 18  
12 専攻科 18  
13 専攻科 18  
14 専攻科 18  
15 専攻科 18  
16 専攻科 18  
17 専攻科 18  
18 専攻科 18  
19 専攻科 18  
20 専攻科 18  
21 専攻科 18  
22 専攻科 18  
23 専攻科 18  
24 専攻科 18  
25 専攻科 18  
26 専攻科 18  
27 専攻科 18  
28 専攻科 18  
29 専攻科 18  
30 専攻科 18  
31 専攻科 18  
32 専攻科 18  
33 専攻科 18  
34 専攻科 18  
35 専攻科 18  
36 専攻科 18  
37 専攻科 18  
38 専攻科 18  
39 専攻科 18  
40 専攻科 18  
41 専攻科 18

**【高橋校長】**

技術的基礎技術と誠実さ。

**【神田教務主事】**

ということで、やはり高専生らしい評価は

いただいているのですが、卒業生・修了生に不足している点の断トツが英語力なので、ま

**平成30年度 卒業生就業先（企業） モニタリング結果**

NIT-Tsuruoka

**卒業（修了）生就業先アンケート**  
本校卒業生・修了生に不足している点

● 働いている点  
● 働いていない点

1 専攻科 1  
2 専攻科 2  
3 専攻科 2  
4 専攻科 2  
5 専攻科 2  
6 専攻科 2  
7 専攻科 2  
8 専攻科 2  
9 専攻科 2  
10 専攻科 2  
11 専攻科 2  
12 専攻科 2  
13 専攻科 2  
14 専攻科 2  
15 専攻科 2  
16 専攻科 2  
17 専攻科 2  
18 専攻科 2  
19 専攻科 2  
20 専攻科 2  
21 専攻科 2  
22 専攻科 2  
23 専攻科 2  
24 専攻科 2  
25 専攻科 2  
26 専攻科 2  
27 専攻科 2  
28 専攻科 2  
29 専攻科 2  
30 専攻科 2  
31 専攻科 2  
32 専攻科 2  
33 専攻科 2  
34 専攻科 2  
35 専攻科 2  
36 専攻科 2  
37 専攻科 2  
38 専攻科 2  
39 専攻科 2  
40 専攻科 2  
41 専攻科 2

た後程述べさせていただきますが、確かに高専生の弱みは英語力と言われているので、昨年度の運営協議会でも早坂委員長から英語力についてのご指摘をいただいていたが、さらに本校では授業強化したいと思っております。

こちら学生のみならず教員も自己点検・評価を行っております、独自の手法によって、

**教員の自己・点検評価**

NIT-Tsuruoka

毎年、教員人事管理データベースにより自己・点検評価を実施

【教員評価シート】

氏名	職名	職階	評価	記入日
山本	副校長	准教授	5	2018.03.28
佐藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
鈴木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
田中	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山崎	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐々木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
高橋	教務主任	准教授	5	2018.03.28
斎藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
水野	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山本	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
鈴木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
田中	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山崎	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐々木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
高橋	教務主任	准教授	5	2018.03.28
斎藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
水野	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山本	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
鈴木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
田中	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山崎	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐々木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
高橋	教務主任	准教授	5	2018.03.28
斎藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
水野	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山本	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
鈴木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
田中	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山崎	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐々木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
高橋	教務主任	准教授	5	2018.03.28
斎藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
水野	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山本	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
鈴木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
田中	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山崎	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐々木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
高橋	教務主任	准教授	5	2018.03.28
斎藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
水野	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山本	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
鈴木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
田中	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山崎	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐々木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
高橋	教務主任	准教授	5	2018.03.28
斎藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
水野	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山本	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
鈴木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
田中	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山崎	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐々木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
高橋	教務主任	准教授	5	2018.03.28
斎藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
水野	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山本	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
鈴木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
田中	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山崎	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐々木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
高橋	教務主任	准教授	5	2018.03.28
斎藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
水野	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山本	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
鈴木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
田中	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山崎	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐々木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
高橋	教務主任	准教授	5	2018.03.28
斎藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
水野	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山本	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
鈴木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
田中	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山崎	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐々木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
高橋	教務主任	准教授	5	2018.03.28
斎藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
水野	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山本	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
鈴木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
田中	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山崎	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐々木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
高橋	教務主任	准教授	5	2018.03.28
斎藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
水野	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山本	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
鈴木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
田中	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山崎	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐々木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
高橋	教務主任	准教授	5	2018.03.28
斎藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
水野	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山本	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
鈴木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
田中	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山崎	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐々木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
高橋	教務主任	准教授	5	2018.03.28
斎藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
水野	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山本	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
鈴木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
田中	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山崎	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐々木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
高橋	教務主任	准教授	5	2018.03.28
斎藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
水野	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山本	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
鈴木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
田中	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山崎	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐々木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
高橋	教務主任	准教授	5	2018.03.28
斎藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
水野	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山本	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
鈴木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
田中	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山崎	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐々木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
高橋	教務主任	准教授	5	2018.03.28
斎藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
水野	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山本	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
鈴木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
田中	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山崎	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐々木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
高橋	教務主任	准教授	5	2018.03.28
斎藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
水野	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山本	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
鈴木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
田中	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山崎	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐々木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
高橋	教務主任	准教授	5	2018.03.28
斎藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
水野	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山本	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
鈴木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
田中	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山崎	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐々木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
高橋	教務主任	准教授	5	2018.03.28
斎藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
水野	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山本	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
鈴木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
田中	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山崎	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐々木	教務主任	准教授	5	2018.03.28
高橋	教務主任	准教授	5	2018.03.28
斎藤	教務主任	准教授	5	2018.03.28
水野	教務主任	准教授	5	2018.03.28
山本	教務主任	准教授	5	2018.03.28
佐藤	教務主任	准教授	5	2018.0

細かい話に入っていくのですが、本校ではディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー、三つの方針を定めていることを簡単にご説明申し上げます。三つのポリシーがいかなるものかというのを簡単に説明させていただきます。

1 - 2

NIT-Tsuruoka

- 準学士課程、専攻科課程それぞれについて、卒業（修了）の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）（以下「三つの方針」という。）が学校の目的を踏まえて定められていること。

11

3つのポリシー

NIT-Tsuruoka

- 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)  
PDCAサイクルの起点として、学生が身につけるべき資質・能力の目標の明確化
- 教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）  
教育課程編成、学修方法・学修課程・学修成果の評価の在り方を具体化
- 入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）  
入学前に多様な能力の身につけた学生を求めると、入学者選抜の在り方を具体化

12

ディプロマ・ポリシーというのは卒業認定・学位授与の方針で、学生が身につけるべき資質能力のことを指します。カリキュラム・ポリシーは教育課程の編成・実施方針、これがしっかりと明らかにされているかということになります。また、アドミッション・ポリシーとは入学生受け入れ方針のことで、入学者選抜のあり方を具体的に示しているかということと三つのポリシーと定めて、学校で定め、公表しているかということの内容と

なります。

本校としては卒業認定・学位授与の方針としてはディプロマ・ポリシーとしてこの（A）から（G）をそれぞれ定めております。全文

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)

NIT-Tsuruoka

(A)知識を統合し多面的に問題を解決する構想力を身につける。

(B)幅広い教養と技術者・研究者としての倫理を身につける。

(C)〇〇工学の基礎としての数学、自然科学の基礎学力を身につける。

(D)専門分野の知識と情報技術を身につける。

(E)ものづくりに関する幅広い対応能力を身につける。

(F)論理的表現力と外国語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける。

(G)〇〇工学分野を主とした幅広い知識と技術を活用して、実験・実習による実践力を身につける。

※〇〇には、次の文字が入る。機械(M)、電気電子(E)、情報(I)、化学・生物(B)

13

読むのは割愛いたしますが、知識を統合し多面的に問題解決する構想力を身につける、ですとか、幅広い教養と技術者・研究者としての倫理を身につける、あとこの〇〇ということは四つのコースがございますので、機械工学の基礎としての数学・自然科学の基礎学力を身につける等々その（A）から（G）にわたって方針を定めてございます。

こちらはカリキュラム・ポリシーでさらに見にくく細かい字なのですが、コースごとにディプロマ・ポリシーに合わせた能力を育成するために、このようにカリキュラムの編成

教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）

NIT-Tsuruoka

機械コースでは、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、早い段階から専門教育を学修する以下のカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程系統図に示しています。

機械工学を理解する幅広い知識を養うために、5年一貫の教養教育及び実践的工学教育を様々な科目からなるカリキュラムによって効果的に行い、創造性豊かな技術者として将来活躍するための知識と技術、課題探求・問題解決能力などの総合的判断力、コミュニケーション能力や国際性、技術者としての倫理観を身につけた人材の育成を行います。

一般科目として人文社会（国語、歴史、地理、政治・経済）、外国語（英語等）、数学、自然科学（物理、化学、生物）、情報基礎の基礎教育を行います。また機械の設計や開発を行う技術者となるために必要な基礎となる力学系（工業力学、材料力学）、材料系（材料科学、材料化学）、熱・流体系（熱力学、水力学）、運動・制御系（機械力学、制御工学）といった機械工学の専門知識を身につけるカリキュラムを構築しています。特にものづくりのための、設計・製図（機械製図設計）、加工（生産加工学、精密加工学）の知識、そして、機械工学分野を主とした幅広い知識と技術を活用するエンジニアリング能力習得に関する科目（機械設計製図、機械工学実験・実習）、グローバルエンジニア育成のためのコミュニケーション習得に関する科目（プレゼンテーション、英語）、総合的な人材育成と起業家精神の涵養に関する科目（総合工学I～IV）、専門知識の定着と応用力を涵養させるため、全科目で学習プロセス重視の「学習者中心の授業」アクティブラーニング（グループワーク、ティーチング等）に関わる科目を体系的に配置します。これらの課程をとおして、自ら課題を見出し解決する能力への発展を促す（卒業研究）ことで、次世代を担う技術者に必要な能力を身につけるようになります。

上記カリキュラムを構成している各科目は、それぞれのシラバスに記載されている評価方法に沿って評価した結果が60点以上（1～3年生については50点以上）と認められることによって単位を認定します。

方針を明確にしております。実は先週の12月3日に、大学改革支援・学位授与機構というところから機関別認証評価という審査を受けまして、このポリシーの書き方がだめだと言われて、全面的に見直したものを今ホームページには公表しているのですが、今回は昨年度のままの評価をいただくということで、昨年度のものをお出しさせていただいております。

こちらがアドミッション・ポリシーで、新入生の受け入れるとき、入学生の受け入れ方

**入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）**



- ・ 技術や科学に関心があり、社会に貢献する技術者、研究者への夢を抱いている人
- ・ 学習意欲が高く、数学、理科、国語、社会、英語の基礎力が備わっている人
- ・ 何事にも粘り強さと責任感を持って積極的に挑戦する意欲があり、自ら進んで学習できる人
- ・ 「ものづくり」に対する専門的知識を身に付けて、将来、課題解決のために活動するリーダーとなることを志す人

16

針になります。このように四つを掲げて、特に最後、「ものづくり」に対する専門知識を身につけて将来課題解決のために活動するリーダーとなることを志す人ということを強調しております。

こちらが専攻科のディプロマ・ポリシーになります。こちらは後程専攻科長からも話があるかもしれませんが、このように四つの項目を設けております。4番目に英語力を含めたコミュニケーション力ということで専攻科も一段と英語力に力を入れてございます。こちらが専攻科のカリキュラム・ポリシーで、これも先程同様ディプロマ・ポリシーを達成するためにどのようにカリキュラムを編成しているかということ公表している内容でござ

**専攻科ディプロマ・ポリシー（修了認定方針）**



専攻科の一般科目、共通専門科目、及びコース毎の専門科目を履修し、所定の単位取得要件を満たして専攻科の学習・教育目標を達成した者は、以下の能力を身につけているとして修了証を授与する。

1. 広い視野を持ち、多様な価値観を理解できる能力
2. 自ら考え計画し、能力を総合的に発揮して問題を解決できる能力
3. 専門分野に加えて基礎工学をしっかりと身につけた生産技術に関する幅広い対応力
4. 英語力を含めたコミュニケーション力

16

**専攻科カリキュラム・ポリシー（カリキュラム編成方針）**



社会情勢の変化にも対応して活躍できる技術者や研究者を育成するため、専門科目だけでなく広い分野にわたる知識や技術も習得できるよう、以下のようカリキュラム編成を行っている。

1. 大学工学部と同等水準の専門科目群と「総合実践英語」などによるコミュニケーション力を重視した英語科目
2. 所属コース以外の基礎的な専門知識（基礎工業力学、実践電気電子工学、材料科学）と基礎技術（専攻科実験）を学ぶ融合複合科目
3. 課題解決型科目としての「実践的デザイン工学実習」や「創造工学実習」と「インターンシップ」での就業体験
4. 継続的な自己管理能力を育成し、学修の総まとめとなる「専攻科研究」
5. 社会や環境に対する問題意識と倫理観を涵養する「環境化学」や「環境地理学特論」、「技術者倫理」
6. いろいろな分野の先端科学技術を紹介する「総合技術論」などで社会情勢を理解

17

ございます。こちらでもアドミッション・ポリシーで専攻科の入学者受け入れ方針となります。

**専攻科アドミッションポリシー（入学者受入方針）**



1. 科学技術への関心が高く、研究に対して意欲がある人
2. 発想に独自性があり、チャレンジ精神に富んだ人
3. 技術や科学の専門基礎力を有し、開発型の実践的な技術者や研究者を目指す人

18

科学技術への関心が高く、研究に対して意欲がある人もさることながら、発想に独自性がありチャレンジ精神に富んだ人、先程学校長が申し上げたとおり、とにかく主体的に自ら

動き自ら考えられる人を受け入れ方針に掲げております。こちらの三つの方針、今ほどの三つのポリシーが社会状況の変化に合わせて適宜見直されているかというところの説明となります。

1-3

NIT-Tsuruoka

- 学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されていること。

19

こちらもしささか見づらいののですが、このように年間スケジュールを立てて、先程申し上げた委員会が適宜会議を開きながら社会情勢に合った三つのポリシーがしっかりと編成されているかというところを本校では整備してございます。

点検予定	計画 (P)	実施 (D)	評価 (C)	改善 (A)
平成31年度 (2019年度)				
4月	講義士研修、履修料の3割引下げの検証 (自己研修、研修発表)	3割引きの検証【新入生】	3割引きの検証【新入生】	3割引きの検証【新入生】
5月	3割引きの検証 (自己研修、研修発表)	3割引きの検証【新入生】	3割引きの検証【新入生】	3割引きの検証【新入生】
6月	3割引きの検証 (自己研修、研修発表)	3割引きの検証【新入生】	3割引きの検証【新入生】	3割引きの検証【新入生】
7月	3割引きの検証 (自己研修、研修発表)	3割引きの検証【新入生】	3割引きの検証【新入生】	3割引きの検証【新入生】
8月	3割引きの検証 (自己研修、研修発表)	3割引きの検証【新入生】	3割引きの検証【新入生】	3割引きの検証【新入生】
9月	3割引きの検証 (自己研修、研修発表)	3割引きの検証【新入生】	3割引きの検証【新入生】	3割引きの検証【新入生】
10月	3割引きの検証 (自己研修、研修発表)	3割引きの検証【新入生】	3割引きの検証【新入生】	3割引きの検証【新入生】
11月	3割引きの検証 (自己研修、研修発表)	3割引きの検証【新入生】	3割引きの検証【新入生】	3割引きの検証【新入生】
12月	3割引きの検証 (自己研修、研修発表)	3割引きの検証【新入生】	3割引きの検証【新入生】	3割引きの検証【新入生】
1月	3割引きの検証 (自己研修、研修発表)	3割引きの検証【新入生】	3割引きの検証【新入生】	3割引きの検証【新入生】
2月	3割引きの検証 (自己研修、研修発表)	3割引きの検証【新入生】	3割引きの検証【新入生】	3割引きの検証【新入生】
3月	3割引きの検証 (自己研修、研修発表)	3割引きの検証【新入生】	3割引きの検証【新入生】	3割引きの検証【新入生】

続きまして教育組織及び教育支援の内容となります。こちらについては今ほど言った内部質保証システムを支える教育組織、さらにその支援者等がどういうふうに機能しているかというところの説明となります。ここに書

【基準2. 教育組織及び教員・教育支援者等】

21

2-1

NIT-Tsuruoka

- 学校の教育に係る基本的な組織構成が、学校の目的に照らして適切なものであること。また、教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能していること。

22

いてありますけれども、組織構成が学校の目的に照らして適切であるかどうかというご説明になります。こちら、先程学校長が丁寧にご説明申し上げて重複しておりますので割愛させていただきます。

本校では各学年 160 名の定員になります。

教育体制

NIT-Tsuruoka

本校では、地域からの要請による産業構造の高度化に対応できる融合複合技術者の育成を目指し、学科の大括り化による再編を行う。

<4・5年次>  
応用分野で課題発見・解決能力など実践力を育成

<2・3年次>  
基本コースで技術者の素養を育成

<1年次>  
混合学級とし4学級に分けて運営

専攻科

材料工学 (31-42.6)

資源エネルギー (31-43.6)

ソフトウェア (32-44.6)

デザイン工学 (33-45.6)

環境バイオ (34-46.6)

ニート養成アドバンストシステム導入制度

英語授業 専攻科履修制 優先出席 (1.6)

1年次: 基礎コース (31-41.6)

2年次: 応用コース (32-42.6)

3年次: 専門コース (33-43.6)

4年次: 高度コース (34-44.6)

5年次: 高度コース (35-45.6)

1年時の成績で2年生からの基礎コース決定

3年時の成績で4年生からの応用分野決定

4年時の成績で5年生からの高度コース決定

創造工学科 (160名) 中堅2年生は全員創造工学科に交換

23

定員 160 名に対して、原級留置等もありますので、現状 160 名を前後しておりますけれどもほぼ定員で推移しております。こちら

### 学生の定員及び現員

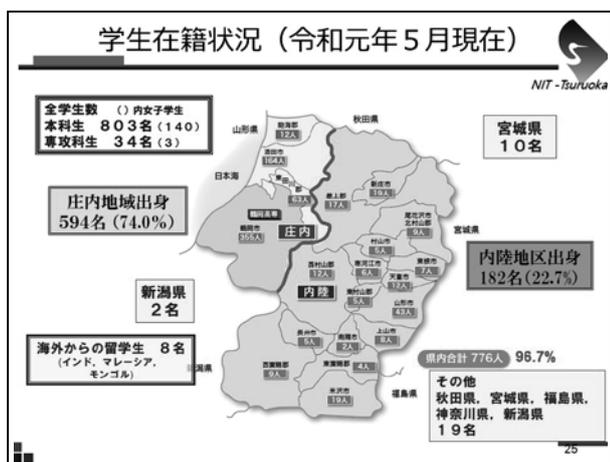
NIT-Tsuruoka

創造工学科の定員は160名、2年次から基礎コースである機械コース、電気・電子情報コース、情報コース、化学・生物コースの定員は36~44名

本科 令和元年5月1日現在 As of May 1, 2019

区分 Number	創造工学科 Creative Eng.		コース別内訳 Breakdown by courses					計 Total
	定員 Quota	現員 Actual Numbers	機械コース Course of Mechanical Engineering	電気・電子コース Course of Electrical and Electronic Engineering	情報コース Course of Information Systems Engineering	化学・生物コース Course of Chemistry and Biology		
第1学年 1st	160	182 (31)					162 (31)	
第2学年 2nd	160	158 (33)	37 (10)	41 (5)	40 (9)	40 (9)	158 (33)	
第3学年 3rd	160	153 (30)	41 (8)	39 (4)	42 (10)	41 (8)	163 (30)	
第4学年 4th	160	154 (24)	37 (4)	42 (1)	44 (7)	41 (12)	164 (24)	
第5学年 5th	160	156 (22)	40 (3)	38 (1)	36 (7)	42 (11)	156 (22)	
計 Total	800	803 (140)	155 (25)	160 (11)	162 (33)	154 (40)	803 (140)	

は昨年度の実績になりますが、県内からの出身者の割合とまた県外者の学生数になります。本科生全員で 803 名、庄内地域が 74% になります。県外からは 19 名、内陸が 22.7% となります。このうち半分が今寮で寄宿している状況となります。こちら専攻科の定員 16



名に対して現状それぞれコース別で配置されていまして、第1学年は 16 名、第2学年は 18 名で、32 名の定員に対して 34 名の定員で運用してございます。

こちらが運営体制図で学校総覧等でも記載させていただき、ホームページでも公表させていただいておりますが、学校長を中心にそ

### 専攻科学生の定員及び現員

NIT-Tsuruoka

本校は1専攻3コース制を採用、生産システム工学専攻のディプロマ・ポリシーに反映されている。具体的には機械・制御コース、電気電子・情報コース、応用化学コースで専攻合計で16名である。

区分 Number	生産システム工学専攻 Production System Eng.		コース別内訳 Breakdown by courses			計 Total
	定員 Quota	現員 Actual Numbers	機械・制御コース Course of Mechanical and Control Engineering	電気電子・情報コース Course of Electric, Electronic and Information Engineering	応用化学コース Course of Applied Chemistry	
第1学年 1st	16	16 (2)	2 (0)	9 (1)	5 (1)	16 (2)
第2学年 2nd	16	18 (1)	1 (0)	11 (0)	6 (1)	18 (1)
計 Total	32	34 (3)	3 (0)	20 (1)	11 (2)	34 (3)

れぞれ将来構想・戦略会議、運営会議等々が配置され、先程から申し述べている学校として機能できるよう整備をしている組織となります。



教育活動を整備するために必要な教員が適切に配置されているかというところが問われ

### 2-2

NIT-Tsuruoka

- 教育活動を展開するために必要な教員が適切に配置されていること。

ておりますけれども、このようにこれも非常に見づらい小さい表で申し訳ないのですが、このように校長はじめ基盤教育グループ、機械、電気・電子、情報、化学・生物コースとバランス良く配置されています。本校は外国

### 教員構成と配置

	校長		教授		准教授		講師		助教		特任教授		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
校長	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
基盤教育グループ	0	0	3	0	5	1	3	0	2	2	0	0	13
機械コース	0	0	1	0	4	0	0	0	2	0	0	0	7
電気・電子コース	0	0	1	0	6	0	2	0	0	0	0	0	10
情報コース	0	0	1	0	4	0	0	0	1	0	0	0	11
化学・生物コース	0	0	4	3	1	0	0	1	2	1	0	0	12
計	1	0	11	0	24	2	5	0	4	4	1	0	49

	60代	50代	40代	30代	20代	計
校長	1	0	0	0	0	1
基盤教育グループ	1	6	5	4	0	16
機械コース	0	3	3	0	0	6
電気・電子コース	1	5	4	3	0	13
情報コース	2	4	5	0	0	11
化学・生物コース	1	4	3	4	0	12
計	6	22	25	14	0	67

	60代	50代	40代	30代	20代	計
校長	0	0	0	0	0	0
基盤教育グループ	0	0	0	0	0	0
機械コース	0	0	0	0	0	0
電気・電子コース	0	0	0	0	0	0
情報コース	0	0	0	0	0	0
化学・生物コース	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0

- 外国人教員を3名配置している。また、専門科目においては、実務経験者が3割程度以上となるように配置している。
- 博士の学位取得者が9割以上となるように、専門分野が偏らないように授業科目担当教員として配置している。
- 特例適用認定専攻科審査において合格をした教員で研究業績を有する教員を特別研究担当教員として配置している。

人教員が3名配置されておまして、実務経験者が3割以上となるバランスのとれた教育機関となっております。また学位取得者が9割以上を占めております。特例適用認定専攻科審査、こちら本校の専攻科において学位授与をできる特例認定を受けての教員が60%程度配置しておりますが、そちらをこれからさらに強化していきたいと思っております。

また、本校では教員の相互授業参観ということで、教育力、教育の質をアップするため

### 教員相互授業参観

- 科目間の連携強化及び教育方法改善に資するため、全授業科目を対象とした「オープン授業参観」を実施。
- この取り組みを通じて、気軽に授業見学できる雰囲気醸成し、教員相互の学び合いを推進。
- 参観者から提出された観報告書に基づき、各教員がそれぞれの授業方法改善策を見出して実践。

参観期間	令和元年10月29日(火)～11月14日(木)
対象授業	参観期間中に開講する全授業科目
参観手続き	1) 参観者は、参観希望の日時を当該授業担当者へ事前連絡し、許諾を得ること。 2) 当該授業担当者(被参観者)は、許諾の取得がない限り、参観を許諾すること。 3) 参観時間は任意とするが、当該授業担当者(被参観者)5分、指示があれば、それに従って参観すること。
参観回数	2回(登月前)以上
参観報告書	1) 参観者は参観直後の17時までには授業参観報告書を所定のファイルで作成し、メールで被参観者と学生課教務係へ送信する。 2) メールでの件名は、「参観報告書-参観者氏名」とする。 (例: 参観報告書-渡辺 〇〇) メールに添付する報告書のファイル名は「参観報告書-参観者氏名-参観授業名(被参観者氏名).xlsx」とする。 (例: 「参観報告書-渡辺 〇〇-11月14日(木)情報リテラシー(竹村) .xlsx」)
フォローアップ	・教育改善FD委員会は、提出された参観報告書の内容を基幹し、授業全体の傾向(優れた点や改善点等)として報告する。 ※「授業参観報告全体傾向集約」として全教員に資料提示。 ・各人が受領した参観報告書と授業参観報告全体傾向集約を併せて、授業改善の指針として活用する。 ・各教員の授業改善状況は、年度末実施の「教育改善アンケート」で確認する。

にオープン授業参観等を行い、それぞれ啓発し合いながら教育力を高め、教員相互で学び合いの場を設けております。また、教育研究活動を活性化するために本校では教職員等顕彰規程に基づき、年度末に顕著な具体的な功績のある教員に表彰状を出したり、またさらに研究活動を活性化させるために研究助成金制度も設けています。さらに教員の研究を推

### 教育研究活動の活性化

- 「教職員等顕彰規程」に基づき、本校の校益又は名誉の高揚に資する検証可能な顕著かつ具体的功績あるいは功労のある者を年度末に表彰している。
- 研究活動の活性化を図るため、外部資金獲得を奨励し、校長裁量経費による研究助成金制度を設けている。
- 教員の研究を推進支援するためにH25年度から研究奨励教員制度を設けている。



表彰状のイメージ。表彰状には「表彰状」とあり、表彰された教員の氏名と功績が記載されている。

進支援するために研究奨励教員制度も設置してございます。

こちらは教員の採用および昇格にあたって明確な基準、規程が定められているか、こち

### 2-3

全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われていること。また、教員の採用及び昇格等に当たって、明確な基準や規定が定められ、それに従い適切な運用がなされていること。

↓

「教員選考方針」に基づいた「教員選考基準」、「内部昇任規定」に則り、スケジュール化され、教員選考委員会が設置され厳格に運用されている。

らについても本校では詳細は割愛させていただきますが、教員選考方針、選考基準、内部昇任規程に則りしっかりとスケジュールされ、適切な判断で厳格に運用してございます。

教員の教育能力の向上を図る取り組み、また教育支援者等が適切に配置されているかというところについては、今年は残念ながらできなかったのですが、保護者授業見学会、学校見学会を開催しまして、実際保護者の方からも授業参観いただきながら教員の質を高めているところでございます。また授業アンケ

## 2-4



- 教員の教育能力の向上を図る取組が適切に行われていること。また、教育活動を展開するために必要な教育支援者等が適切に配置され、資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。

33

## 保護者授業見学・学校見学会の開催



- 約130名の保護者が参加
- ガイダンス（担当教務主事補）
- 学校説明（校長）
- 1学年～5学年の開講授業を公開
- 5年生の一部で卒業研究公開

### 保護者との連携

「いきいきとした様子が見受けられてよかった」、「学生から研究内容を説明してもらって感激した」など好評



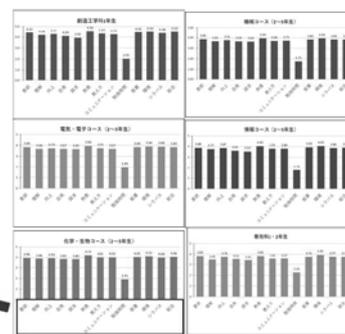
34

ートも実施しておりまして、それぞれ前期後期に学生に全科目で授業アンケートをとり、それぞれ授業アンケートの結果を見ながら各教員が自分の授業のあり方を改善しているところになります。こちらは玄関にも表示して、科目までは出ていないのですが、どういう能力が求められてどういうところが低かったかということもお互い啓発し合いながらオープンにして進めております。

## 授業アンケート実施



- 前期・後期で年間2回、全開講科目で実施。
- 各科目担当教員がアンケート結果を受けて「学生の学習状況」「自身の指導法・学習支援」の観点から自己評価を実施。
- 右図のグラフを学生昇降口に掲示し学内外へ公開。



また、こちらは教育改善改革FD委員会等が主体となってそれぞれ教育力を高めるため、教育以外でも教員の素養を高めるためにいろいろな研修会を実施してございます。こちらは事務職員及び技術職員の構成となっておりますが、本校では教員のみならずそれを支え

## FD・SD研修会の実施



- 教育改善FD委員会が保健センター、教務委員会など他の組織と連携して、毎年度、数回のFD研修会を計画及び実施し、教育の質的向上に努めている。FD研修会終了時にはアンケートを行い、研修の効果が得られているか確認している。



36

## 事務職員及び技術職員の構成



職員数・年齢構成

	男	女	計	60代	50代	40代	30代	20代
事務系	17	11	28	0	5	6	13	4
技術技能系	0	0	0	0	0	0	0	0
医療系	0	1	1	0	1	0	0	0
教務系	10	1	11	0	1	3	7	0
計	27	13	40	0	7	9	20	4

- 学校における教育活動を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等が適切に配置されている。
- 技術職員は教育研究技術センターに所属し、3つの班に組織化されそれぞれの分野での教育研究活動を支援している。
- 図書館には、その機能を十分に発揮させるために必要な専任の総務課所属の職員を置いており、現在、事務補佐員も勤務している。

37

ていただいている事務職員の方、技術職員の方もこのような年齢構成で適切に配置させていただきます。

基準1及び2についてのご説明は以上となります。ありがとうございました。

### 【早坂委員長】

ありがとうございました。

それでは、続きまして基準3について、小野寺学生主事からお願いいたします。

### 【小野寺学生主事】

学生主事の小野寺です。よろしくお祈りします。

私の方からは基準3「学習環境及び学生支援等」について説明させていただきます。



小野寺 良二  
副校長・学生主事

こちらの基準3は大きく二つの観点からなっておりまして、まず一つ目の観点としましては教育研究組織及び教育過程に対応した施設設備が整備され、またICT環境が適切に整備されるとともに図書、学術雑誌、視聴覚資料その他教育研究上必要な資料が系統的に集約、整理されているというところが観点となっております。

### 【基準3. 学習環境及び学生支援等】

### 3-1



- 学校において編成された教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されていること。また、ICT環境が適切に整備されるとともに、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されていること。

39

まず、施設・設備の整備とその有効活動についてですが、学内の研究室及び実験室の作業環境を、作業環境チェックシートを用いて月1回実施しております。この実施で研

### 3-1 施設・設備の整備と有効活用



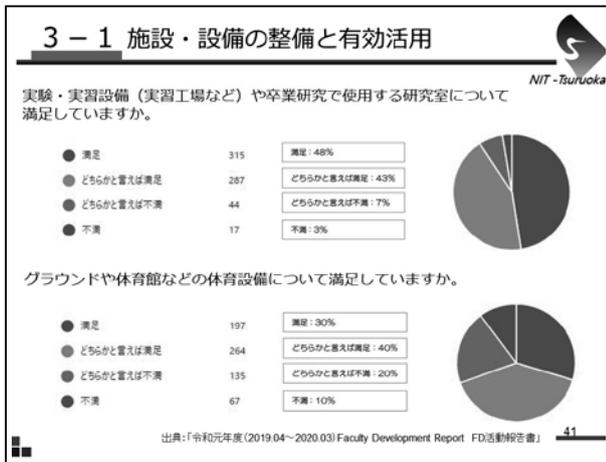
- 研究室、実験室の作業環境を点検  
作業環境チェックシートの記入を月1回実施
- バリアフリーへの対応  
建物入り口にスロープ  
エレベータ、5カ所  
(2,7,8号館, 図書館, 厚生会館)  
身障者用トイレ



40

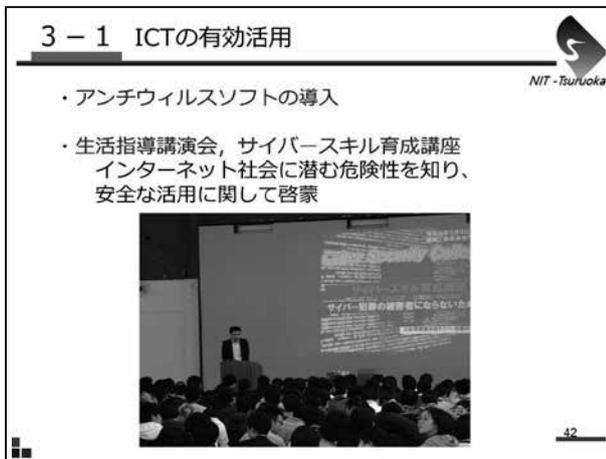
究室、実験室が適切に運用されていることを確認し、改善すべき点はその都度改善していくという形で行っております。また、学内のバリアフリー対応としまして、こちらの写真は図書メディアセンターの入り口の写真になりますが、このように建物入り口にスロープを設けています。また、学内エレベーター5カ所に、2号館、7号館、あとは新設されました8号館、図書館、厚生会館にエレベーターを設けております。さらに学内のトイレにおきましては障害者用のトイレも整備し、バリアフリーへの対応も整えています。

こちらは毎年度末に学生に対して行う学校に対するアンケートの施設設備に関する結果の一部抜粋でございますが、こちらの実験・

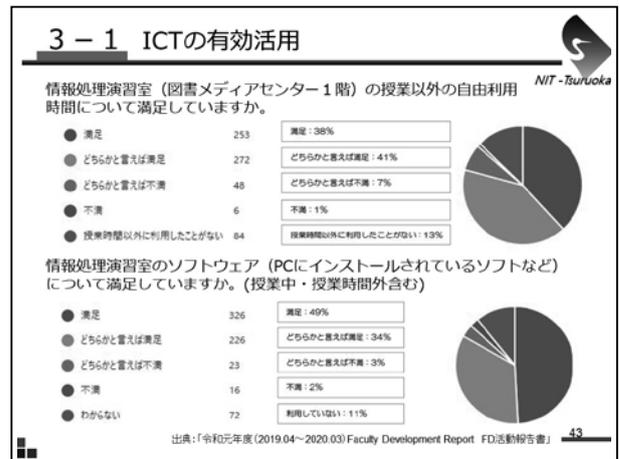


実習設備や卒業研究で使用する研究室については約91%の満足度を得ております。また、グラウンドや体育館などの体育施設・設備についても70%の満足度を得ております。体育施設については若干満足度が低い部分があるのですが、やはりクラブ等である施設を共有して使っていくところがあるかありまして、そういう点でやはり十分な満足度はまだ得られていないかなと思います。

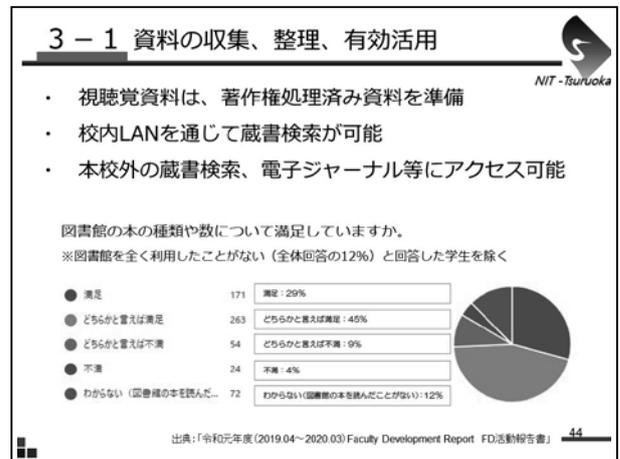
続きまして、ICTの有効活用としまして、有効に活用するためにはこの反省をしっかりとしなければいけないというところから研究室、あるいは教職員が使用しているパソコン



には必ずアンチウイルスを導入し、ウイルス対策を万全にしております。また、生活指導講演会、サイバースキル育成講座で学生に対してインターネット社会に潜む危険性を知ってもらい、安全な活用に関して啓蒙活動を行っております。こちらはICT有効活用に関する学生の声の結果になりますが、情報処理演習室、授業でも使用されています。それ以



外でも使用されていますが、自由利用時間についての満足度としましては79%の満足度、またインストールされているソフトウェアについては82%の満足度を得ております。続きまして資料の収集、視聴覚資料、こちらはDVD等になりますが、こちらは著作権処理済みの資料を準備し、図書館が開館している時間に限られますが、自由に視聴できる設備



を整えております。また、こちら本校だけではないのですが、校内 LAN を通じて蔵書検索が可能となっております。研究室等から学生が検索をして、あれば借りに行くような形のスタンスで学生も有効に活用しております。さらに本校外の蔵書検索、電子ジャーナル等についてもアクセス可能となっております。こちら、下のグラフは図書館に関するアンケート結果になりますが、74%、図書館の本や種類について満足であるという学生からの回答を得ております。

続きまして、二つ目の観点になりますが、

3-2

NIT-Tsuruoka

- 教育を実施する上での履修指導、学生の自主的学習の相談・助言等の学習支援体制や学生の生活や経済面並びに就職等に関する指導・相談・助言等を行う体制が整備され、機能していること。また、学生の課外活動に対する支援体制等が整備され、機能していること。

45

こちらは学習支援体制、あとは経済面並びに就職等に関する指導・相談・助言等を行う体制が整備され、あとは学生の課外活動に対する支援体制等が整備されている、機能していることということになります。

こちらは学生支援に繋がる各種ガイダンスの年間の実績、昨年度の実績になります。項目がたくさんありますが、主だったところとしては赤字、黄色塗りされているところですが、こちらは就職や CO-OP 教育、つまりキャリア支援、キャリアガイダンス等で1年生から3年生にこのような形で実施されています。こちらは10月以降後期の活動実績になっております。これ以外に試験前には担

3-2 教育に必要なガイダンス

NIT-Tsuruoka

令和元年度 特別活動の実績

実施月日	種別	1年【特修】	2年【特修】	3年【特修】
1 4月18日	本	英語ガイダンス(学生主催)△	(担任)	(担任)
2 4月17日	本	英語講座+ペーパーテスト(英語)・学生主催(総合メディアセンター)△	(担任)	(担任)
3 4月24日	本	校内体育大会(1)13選手参加(担任)	校内体育大会(2)13選手参加(担任)	校内体育大会(3)13選手参加(担任)
4 5月1日	本	英語		
4 5月8日	本	学生大会(学生会)○		
5 1月18日	本	(担任)	(担任)	分科選考ガイダンス(担任)・就職主催△
6 1月22日	本	職業センター△	(担任)	キャリアガイダンス(担任)△
7 1月29日	本	就職中期試験(4/11~14)に向けて(担任)	就職中期試験(4/11~14)に向けて(担任)	就職中期試験(4/11~14)に向けて(担任)
8 6月3日	本	3次選考ガイダンス(担任)	企業訪問ガイダンス(担任)△	(担任)
1月12日	本	就職中期試験	就職中期試験	就職中期試験
3 1月19日	本	生活経済講座(学生主催・外部講師)○	生活経済講座(学生主催・外部講師)○	生活経済講座(学生主催・外部講師)○
10 1月26日	本	就職中期試験(担任)	就職中期試験(担任)	就職中期試験(担任)
11 1月3日	本	選手権大会(学生会)○		
12 1月16日	本	命に関する講座(保健センター)△	命に関する講座(保健センター)△	(担任)
7 1月1日	本	就職ガイダンス△	就職ガイダンス△	就職ガイダンス△
13 7月24日	本	(担任)	(担任)	分科選考ガイダンス(担任)・就職主催△
14 7月31日	本	3次選考ガイダンス(担任)・就職主催△	職業体験(担任)	職業体験(担任)
8月7日	本	就職ガイダンス		

46

3-2 教育に必要なガイダンス

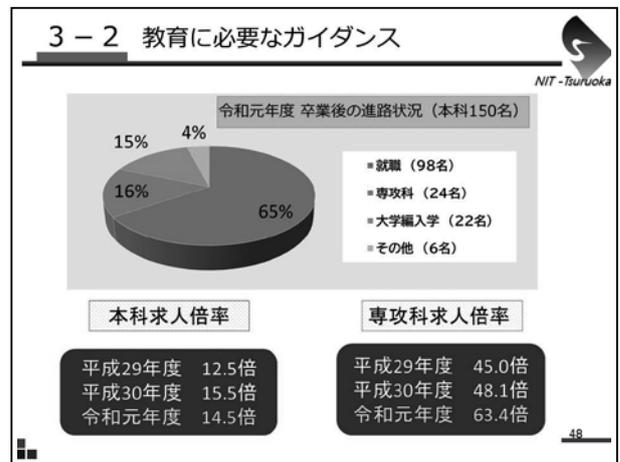
NIT-Tsuruoka

15 10月2日	本	後期開始・高専科について(担任)	後期開始・高専科について(担任)	後期開始・高専科について(担任)
16 10月9日	本	防災避難訓練(総務課)		
10月14日	本	1/2開校式(特修△)	1/2開校式(特修△)	1/2開校式(特修△)
10月25日	本	高専科体験(担任)	高専科体験(担任)	高専科体験(担任)
10月30日	本	1/2開校式(特修△)	1/2開校式(特修△)	1/2開校式(特修△)
11 1月9日	本	(担任)	(担任)	(担任)
11月13日	本	7-8時 未来予想図講座(地域・卒業生△)	(担任)	インターンシップ(就職支援)地域・卒業生△
11月20日	本	就職中期試験(11/20~22)に向けて(担任)	就職中期試験(11/20~22)に向けて(担任)	就職中期試験(11/20~22)に向けて(担任)
11 11月27日	本	3次選考ガイダンス(担任)・就職主催△	(担任)	(担任)
12 12月1日	本	(担任)	(担任)	CO-OP(就職ガイダンス)地域△
12 12月11日	本	就職中期試験(総務課)担任	就職中期試験(総務課)担任	就職中期試験(総務課)担任
12 12月11日	本	企業訪問(2)に向けて(担任)	企業訪問(2)に向けて(担任)	企業訪問(2)に向けて(担任)
12 12月14日	本	(担任)	(担任)	7-8時 スレイン(就職支援)地域・卒業生△
1 1月9日	本	3次選考ガイダンス(担任)・就職主催△	(担任)	(担任)
1 1月19日	本	(担任)	(担任)	分科選考ガイダンス(担任)・就職主催△
1 1月22日	本	(担任)	7-8時 スレイン(就職支援)地域・卒業生△	(担任)
1 1月29日	本	7-8時 キヤリアガイダンス(地域)△	(担任)	(担任)
2 2月5日	本	学年総会(2/3~18)に向けて(担任)	学年総会(2/3~18)に向けて(担任)	学年総会(2/3~18)に向けて(担任)
2 2月12日	本	学年を終わる(1)ふたりの担任	学年を終わる(1)ふたりの担任	学年を終わる(1)ふたりの担任
2 2月19日	本	学年を終わる(2)ふたりの担任	学年を終わる(2)ふたりの担任	学年を終わる(2)ふたりの担任
特修開校式	30回	30回	30回	30回
その他		インターンシップ(就業先)の紹介・企業訪問(1)は特別活動の時間とする(コース別)		

47

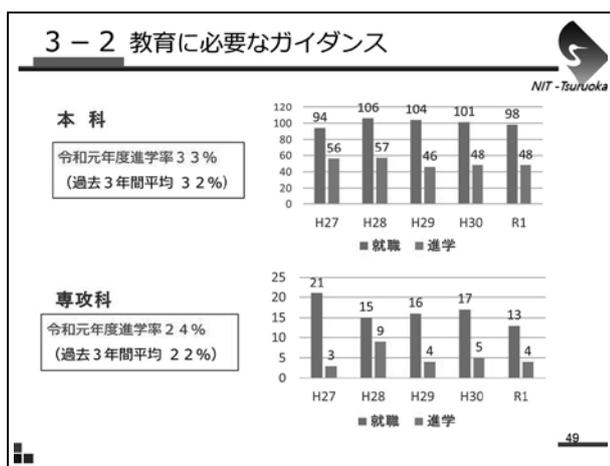
任の先生から試験に向けての心構え等、そういった資料も適切に出されております。

教育に必要なガイダンスとして一つ資料を提示させていただきます。こちらは令和元年

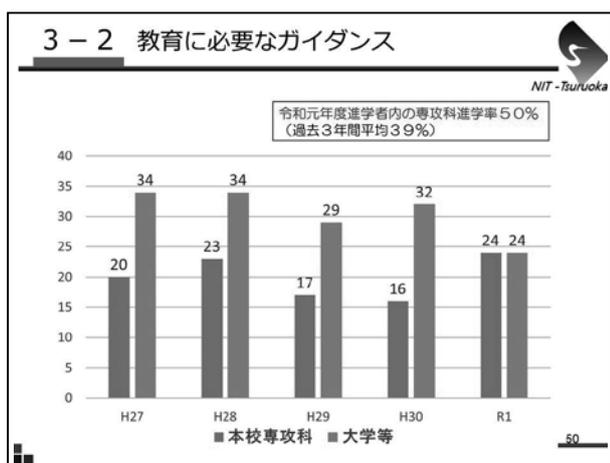


度の本科生 150 名に対して就職が 98 名、進学・その他が 52 名になります。例年 6 割か

ら7割が就職、残りが進学という傾向となっております。求人倍率につきましては3年間のものを示させていただいておりますが、本科、専攻科とも非常に高い求人倍率を維持しております。こちらは本科専攻科の就職・進学状況になります。どちらのグラフも青が就職、オレンジが進学になります。令和元年度



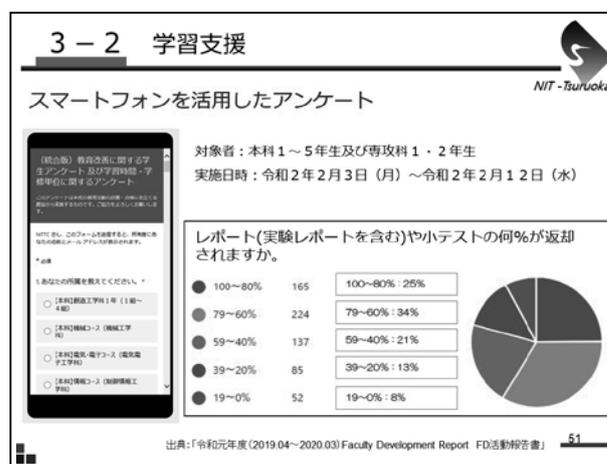
実績ですが本科は進学率が33%、専攻科は24%となっております。本科の場合はこの後出しますので、専攻科の場合は主に大学院への進学となっております。こちらは本科の進学の内訳になります。青が本校専攻科、オレンジが大学等になります。昨年度は全体で



48名おりましたが、24名が専攻科、残りの24名が大学等に進学しております。専攻科の進学率、過去3年間の平均が大体40%だ

ったのですが、昨年50%ということでは例年より高い進学率だったのですが、令和元年度からAO入試というものを導入した結果がこちらの結果につながっているのではないかと考えております。

学習支援についてはまず学生の声をしっかり聞くことが大切だと思っておりますので、例年年度末に全学生を対象にこのようなスマートフォン等で回答できるアンケートを実施しております。こちらはその結果の一例にな



りますが、このように割合、あとはグラフでしっかり出てきますので、学生の声を漏れなく聞くことができ、我々もそれに対してしっかり向き合って改善すべきところは改善するといった形で向上を図っております。また、学生支援の一環として寮生会、学生会と将来

### 3-2 学生支援

#### 寮生会ならびに学生会と将来構想・戦略会議との懇談会

将来構想・戦略会議委員の皆様

標記につきまして下記のとおり開催となります。お忙しい中とは存じますが、ご出席方よろしくお願ひ申し上げます。寮生会からの資料について事前にいただいておりますので、ご参照ください。(資料は当日会場に準備いたします。)

令和2年1月21日(火)

15:00~ 寮生会と将来構想・戦略会議との懇談会 於:大会議室  
16:00~ 学生会と将来構想・戦略会議との懇談会 於:大会議室

52

構想・戦略会議との懇談会を設けております。昨年度は令和2年の1月21日に行っておりますが、今年度も12月に寮生会、1月に学生会との懇談会を実施して、学生の生の声を直接聞いて、直接お互い意見交換をして改善に努めております。

こちらは特別な学習支援の資料になりますが、スペシャルサポートルームと称していますがSSRを活用した学力向上のための学習支援を行っております。こちらは一昨年から

### 3-2 特別な学習支援

SSR(スペシャルサポートルーム)を活用した学力向上のための学習支援

- ・学生が自由に入出りできる学習スペースの提供
- ・図書館ほど静かでないで逆に集中できる、教員が常駐しているので集中でき、勉強の相談もできる。

初期(130.11~R1.10)



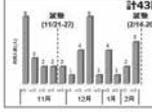
経過(R1.10~)



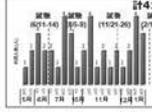
設置場所



計43日



計41日



● 利用日に対する平均利用人数

初期: 3.3人  
経過: 2.3人

SSR開設日で利用する頻度は上がっている。平均利用者の減少は、SSRを使用せず自習自習の習慣が定着してきた。

運用されていますが、特別支援が必要な学生が利用したり、あとは普段勉強の仕方やレポートの書き方等で勉強をしたいという学生が自由に学習できるスペースになっております。まだまだ利用実績が少ないところもあるのですが、このように専攻科生がティーチングアシスタント、指導役として学生が学生を支援する形が徐々に作り上げられているところがあります。

こちらは保健センターの情報になります。保健センターでは不安の感じられる学生には面談等を実施して親身に対応しております。特に本校の教職員との相談対応も含め、外部の専門職の方、県立心の医療センターの医師、教育相談員、スクールカウンセラーが毎日ではありませんが週1、昨年度は1回だったの

ですが、そういった形で学生の支援にあたっております。

### 3-2 学生生活の指導・相談等

#### 保健センターと相談室で健康支援

- ・「学校適用感尺度調査」を実施。  
不安の感じられる学生には面談を実施
- ・必要があれば支援チームを作って支援。専門のカウンセラーも含まれている。
- ・発達障害や精神疾患を持つ学生に希望があれば、特別支援の必要性を検討した上で、特別支援している。
- ・県立こころの医療センター 医師 月1回
- ・教育相談員 週1回 金曜日
- ・スクールカウンセラー 週1回 水曜日

こちらは進路指導・キャリア教育になります。主に4年生、専攻科1年生が対象となりますが、このように学外、桃色の部分は学内のセミナー、黄色の部分が学内で行われる合同企業説明会で県内外の企業合わせて160社程度が体育館に集まり、学生と直に話をしながら学生も情報を収集していくという活動を行っております。学生が求人情報を見て進

### 3-2 進路指導・キャリア教育

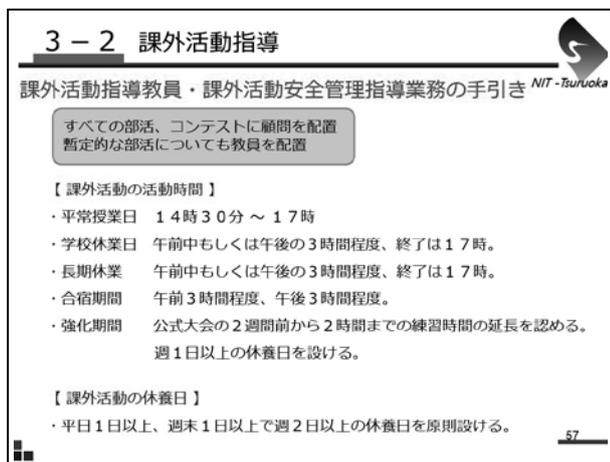
日時	場所	内容	備考(出席者)
令和2年			
12/7(土) 12:00~	○	高専生のための仕事研究センター(シニアアドバイザー)	総合型、遠隔あり (希望者のみ)
12/8(日) 13:00~	○	東北地区高専生のための仕事研究センター(学務アシスタント)	総合型、遠隔あり (希望者のみ)
12/11(水) 14:30~	○	遠隔ガイダンス・進路支援講習会(1)・進路支援講習会(2)(専攻科1年)	就職支援 (希望者のみ)
12/15(日) 13:00~	○	東北地区高専生のための仕事研究センター(メディア情報)	総合型、遠隔あり (希望者のみ)
令和3年			
1/6(月)	○	求人賞金贈呈式・専攻科生就職活動開始	(全員)
1/10(金)	○	進路支援講習会(総合型・希望・就職支援活動員に提出)(専攻科1年)	(全員)
1/14(水) 15:00~	○	キャリアカウンセラーによるセミナー(就職書・エントリーシート作成指導)	合同講演室 (希望者のみ)
1/16(金) 15:00~	○	キャリアカウンセラーによるセミナー(1/14と同様の内容)	合同講演室 (希望者のみ)
1/21(水) 15:00~	○	キャリアカウンセラーによるセミナー(1/14と同様の内容)	合同講演室 (希望者のみ)
1/22(木) 15:00~	○	キャリアカウンセラーによるセミナー(1/14と同様の内容)	合同講演室 (希望者のみ)
2/24(水) 12:00~	○	東北地区高専生のための仕事研究センター(学務アシスタント)	総合型、遠隔あり (希望者のみ)
3/25(水)	○	就職支援講習会(総合型・希望・就職支援活動員に提出)(専攻科1年)	第1体育館 (全員)
2/25(水)	○	希望・就職支援講習会(2)(4年)	第1体育館 (全員)
4月(全期)	○	本邦生就職活動開始・希望・就職支援活動員に提出(本邦6年)	(全員)
4月(上期)	○	遠隔講習	(全員)
4月(上期)	○	遠隔ガイダンス(2)(オンライン上への資料送達)	(遠学年希望者全員)
4/11(土) 12:00	○	保護者懇談会	(全員)

路を決めていくわけですが、その求人情報はこちらの進路支援システムで閲覧することができます。こちらはスマートフォン、あるいはパソコン等でもインターネットが繋がっていればいつでもどこでも見られるシステムですので、学生はこのシステムを活用し、企業

情報あるいは求人情報を検索し、自分の進路に役立てております。



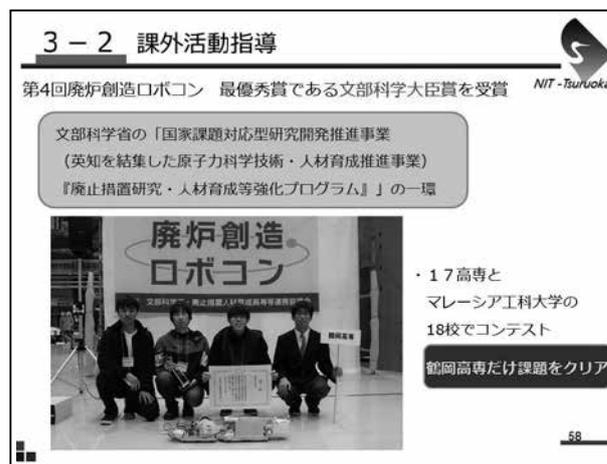
続きまして、課外活動指導であります。本校課外活動指導教員、課外活動安全管理指導業務の手引をスポーツ庁及び機構本部のガイドライン、加えて県の課外活動のガイドラインを基に独自で作成しております。全ての部活、コンテストには顧問を配置し、適切な指導・支援を行っております。また、暫定的



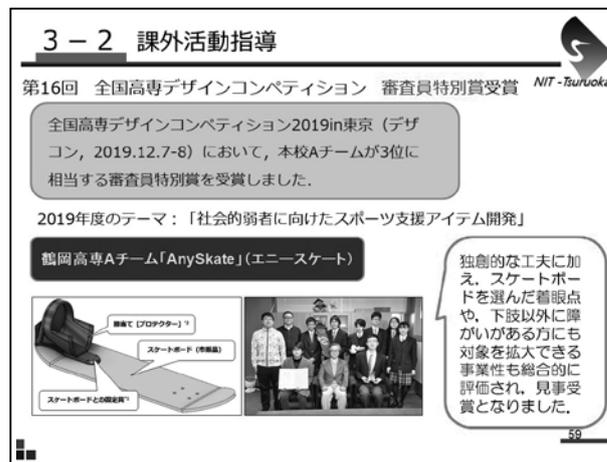
な部活、見方を変えますと、正式に部活動として認めていない活動についても担当教員を配置し、支援を行っております。活動時間等については資料のとおりでございます。

こちらは先程校長からもご紹介がありまして、昨年度廃炉創造ロボコンで一番いい賞をいただいたということになります。情

報系の学生がメインだったので、機械系かなり大変だったということは聞いておりますが、こちらの学生が一人機械の学生なんです、この学生が入ったことで飛躍的に効率が上がったと聞いております。こちらもすでに紹介



がありましたデザインコンペティションの紹介になりますが、写真は先程出ましたので、こちらの図が実際に提案されたものになります。スケートボードを障害者、社会的弱者が



使えるような工夫をしたという点が評価されたということです。さらにこちらが課外活動の中でサービスデザイン部という部活があるのですが、酒田市の飛鳥地区で家電修理のボランティアを毎年行っております。昨年度で11年目になりますが、その取り組みが評価されまして、昨年度山形県の「輝け！やまが

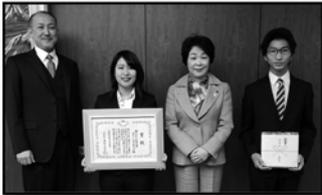
### 3-2 課外活動指導



#### 「テクノ・バラメディック」が山形県の「輝けやまがた若者大賞」を受賞

県内の地域活性化に取り組む若者の優れた功績・成果及び地道な活動を顕彰し、応援するとともに、若者が活躍できる風土づくりの推進を目的として贈られる賞

テクノ・バラメディックは、県内の難病「飛鳥」において、「日頃の学業を地域のために」をテーマに、現地での合宿形式により床電修理等を行う技術提供型のボランティア活動でリープ・デザインが主体となり行っている活動  
今年で10周年。活動の原点は教員主体で学生を指導、数年前に学生が自分たちで考え、企画・立案から酒田市との調整、県内での広報、管理物品の集約、活動終了報告まで実施。近年では、家電修理のほか、県内観光用の自転車修理や管理、観光名所の立て看板やベンチの保全、県内の美化等も実施  
これらの活動は、高齢化や少子化問題、超高齢化といった鳥取特有の問題を、高専での日頃の学業を活かして解決することを目指しており、地域の活性化に大きく寄与。また、学生自身が地域の課題と解決方法を考え、酒田市の関係機関とも連携しながら成果を挙げている点が高く評価され、今回受賞となった。



た若者大賞」を受賞しております。その他の大会結果等、昨年度のものですがこのような形で結果として成果を挙げております。

### 3-2 課外活動指導



#### 全国高専体育大会

水 泳 準優勝 男子100m背泳ぎ  
ソフトテニス 3位 男子個人戦ダブルス

#### 東北地区高専体育大会 : 優勝

ソフトテニス 男子団体戦  
男子個人戦ダブルス

卓 球 男子ダブルス

剣 道 男子団体戦

水 泳 男子50m自由形

男子100m背泳ぎ, 男子200m背泳ぎ

女子100m平泳ぎ

女子200m個人メドレー

61

最後に学寮関係になりますが、学寮でも学習支援という形で、1年生対象の学習会を実施し、34回延べ2,800名が参加したという

### 3-2 学生寮関連①



#### ● 学習会

1年生対象の学習会(毎週月・木)を実施し、34回で延べ2800名が参加した。また、資格取得プロジェクト(危険物)を寮内で実施した。

#### ● 美化活動

日常清掃の他にボランティア活動(クリーン作戦)を実施。



62

実績があります。また、資格取得プロジェクトを寮内で実施し、そういった学習支援についても寮独自で行っております。さらに美化活動として地域と共同して日常の清掃の他にボランティア活動を実施しております。最後に寮生活の紹介になりますが、本校の半数が寮生です。様々な事情を持った学生が様々おります。寮生活のしおりに基づいた1、2年生の生活指導を上級生が中心になって適切に行っております。学寮イベントとしては寮生会が中心となって、寮祭、体育大会、肝試し大会などを企画運営して寮生活の充実化を図っております。また、最後に寮生避難訓練を実施して災害時の安全確認を行い、いざというときのための体制をしっかりと整えております。

### 3-2 学生寮関連②



- 寮生活のしおりに基づいた1・2年生への生活指導
- 学寮イベント

寮生会が、寮祭・寮生体育大会・肝試し大会等を企画運営して寮生活の充実を図った。また、寮生避難訓練を実施して災害時の安全確認を行った。



63

以上で基準3の説明を終わります。ありがとうございました。

#### 【早坂委員長】

ありがとうございました。これまでの学校要覧、基準1、2、3まで今ご説明いただきましたけれども、これにつきましてご質問いただきましたらありがたいのですがいかがでございましょうか。

#### 【東委員】

いろいろ詳しくご説明いただきましてあり

がとうございます。

今年度のコロナ禍での状況を教えていただきたいのですが、1学期の授業はどういった形式で、オンラインですかそれとも対面ですか、どういう感じでされていたんですか。



東 信彦  
長岡技術科学大学長

#### 【高橋校長】

前期は全てオンラインで行いました。後期は対面で行っています。

ただ前期オンラインで行ったときに、それに対応をうまくできる学生とできない学生、あるいは成績がオンラインだと非常にうまくいくのに、対面だとうまくいかない学生、そういうのが出てまいりましたので、後期からはオンラインで行う授業はオンラインのまま、2割程度はオンライン、8割を対面というやり方で併用して行っております。

#### 【東委員】

オンラインを始めるとき、本学も同じですがWeb環境、学生の半分が寮で半分が自宅からだと思いますが、寮のインターネットの環境とか、それから自宅の方もそういうのをきちんとできない学生もいるかと思うのですが、そういう大学からの支援なり、大学の設備、環境を整える、相当お金もかかると思います。その辺りはどうですか、混乱とかはなかったですか。

#### 【神田教務主事】

今のご質問につきましては、本校4月の初めから遠隔授業を始めたわけではなくて、準備が必要だろうということで、4月いっぱい

は遠隔授業のワーキンググループを立ち上げて、教員が遠隔授業の仕方を学びました。それと同時に在学生全員に今ほどの環境についてアンケート調査を行い、ネットワーク環境、タブレットを持っているか否か、パソコンを持っているか否か、スマホだけかどうかということなどを全部調査した上で、5月11日から全面的に遠隔授業を始めました。その中でスマホだけで受けている学生に対してはタブレットの貸与を行い、さらにネットワーク環境を持っていない学生に対してはWi-Fiルーターの貸与を行い、ほぼ1ヵ月程度で全学生がスマホだけで授業を受けることがないように環境は整備いたしました。

#### 【東委員】

初めてのことなので本学も同じなんですけど、先生方オンラインの授業の準備など相当大変だったと思いますし、それを支援する教職員全員本当にご苦労されたのだと思います。それから在宅ワークというものも行わなくては行けないと、一時期は登校禁止というようなこともあったかと思いますが、本当に非常にいろいろなことでご苦労されたのではないかと思います。その辺り何かどういう状況だったか、それと皆さんの学生の声も含めて何かお聞かせいただければと思います。

#### 【神田教務主事】

学校としてとった措置としましては学生同士の繋がりの方がほしいと非常に大きな声をいただいたので、臨時登校日というものを何回か設けまして、密を避ける状態で学年ごとに登校してもらいました。その中で足りていないガイダンスとか説明を行いました。また、ウェブ個別相談会というものを設けまして、夕方5時から7時の時間帯に学生指導だったり進路のことだったり勉強の仕方だったり

いうのを個別で相談できる個別相談会というサイトを設けて、対応してまいりました。

もう一つは学校長の指示もありまして、山形県内だいたい庄内・村山・置賜・最上という四つの地区に分かれるのですが、各地区に出向いて行きまして、地区別の懇談会というものを設けて、とにかく学校として出来る限り保護者に寄り添いながら学生に寄り添いながら対応できるところは行ってまいりました。

臨時登校日、非常に最初は行きたいと言っていたのですが、新型コロナウイルス感染者が発生するとなぜやるんだという声、戸惑いながらではあったのですが、学校としては本当に一人も漏らさないと言いますか、支援しようということでそのような対応をしてまいりました。

#### 【東委員】

すばらしいですね。非常にご苦労されたと思います、よく行われていると思います。

#### 【早坂委員長】

続きまして、皆川委員どうぞ。

#### 【皆川委員】

二つ質問がありますけれども、一つは野村総研との連携についてのご紹介がありました。

11月24日に神尾さんを講師としてということもされたということですが、鶴岡市としても野村総合研究所との連携に取り組んでいるということもありますので、これは高専としてもしくは地元企業と11月24日に参加されていた地域企業もいたということですので、企業と野村総



皆川 治  
鶴岡高専技術振興会会長

研との関係で、何か具体的に連携として想定されそうなことが、さらに深めていけそうなことがどんなことがあるだろうかということが1点目の質問です。

それからもう1点がアドミッション・ポリシーですか、受け入れの方針ということで、リーダーになるとかいろいろあったと思いますが、これは難しいと思いますが、例えば医学部で地域枠というものがあると思うんですが、早坂会長もそうですけれども、地元の企業で、これも毎回毎回この話になるわけですが、ぜひ高専生に来ていただきたいという声があるわけなんですけれども、そういうアドミッション・ポリシー上、地元定着とか地方創生とか、そういった観点というのが検討されているのか、どういう位置付けになるのかということと、それと合わせて企業研究のときに160社が来られたというご紹介がありました、地元企業の参加状況について、今手元に何かありましたら教えていただければと思います。

#### 【高橋校長】

最後の質問だけ私が答えて、あとは神田の方がお答えいたします。

合同企業説明会160社ですが、そのうち我々の後援会に入っている企業これが大体地元企業が半分80社、残りの80社が全国規模の会社というふうにお考えいただければと思います。地域枠というお話しが出ましたが、我々もやはり今160名中100名ほどが就職するわけですが、100名のうち地元に残る割合が大体30名、70名が県外に出ていくということになっています。ただ、今年度は新型コロナウイルスの関係があるので、やはり地元に残った方がいいのではないかとという危惧が少し出ているやには聞いております。

あと、やはり学生は福利厚生が整った企業というのを非常に重視しております。それで私どもが今、非常に考えておりますのは高専生の優秀さをもう少し評価していただきたいということで、地域の企業に大卒と高専卒の初任給を同じにしてもらうような働きかけをいたしまして、今 11 社がそれに賛同してくださっております。今年度中に 11 社に本校に来ていただいて、高専生を元気にするシンポジウムという仮の名前ですけれども、つけておまして、壇上に 3、4 人集まって上がっていただいて、なぜ高専生と大卒生の初任給を同じにしたのかという話をしていただき、それが終わりましたから企業説明会を 11 社に限り行いたいということで、それは非常に大きな力になってくるのかな、それがだんだん全国的に広がっていきますと、この地区が高専生を大事にする地域だということが定着し、近隣の高専等からもここに就職するような学生たちが出てくるのではないかと期待しています。

#### 【神田教務主事】

私の方からは野村総合研究所様との連携についてお話し申し上げます。神尾様、何度か鶴岡に来鶴されており、高専の方にも足を運んでいただいて、とにかく地元企業との連携を進めたいと常々おっしゃっていました。本校のOBが在校している高砂製作所さんですか、渡会電気土木の武田さんのところですか、本校がお世話になっている高研さんのところをご案内などしながら地元とどう連携できるかを模索しております。

その一環として先程ご報告申し上げました 11 月 24 日に商工会議所の技術者ネットワークの方からとにかく高専さんと何かやりたいという話をいただいたものですから、本当

にいい機会だったので神尾さんにもご登壇いただいて、おそらく初めてだと思うんですが、高専の教員がファシリテーターになって学生もグループワークに入って、地元企業の方と一緒にグループワークを行いました。それは今後継続していきたいと思っております、その中にまた神尾さんのローカルハブの構想だったりというところを強化して行って、形づくっていければなと思っております。

担当者の大西が今そこにいるので、もしコメントがあれば。急に振りましたが、実は大西の方がグループワークなどを全部仕切ったといえますか。

#### 【大西電気・電子コース長】

それでは、一応教育プログラムとして私の方では考えていたのですが、やはり本校の学生と地元企業の皆さんと一緒に活動する場を作りたいというのが一つ大きくありまして、



大西 宏昌  
電気・電子コース長

その中で例えば CO-OP 教育などで協力いただいた企業さんもいるんですが、学生が企業の方に教わりに行くのではなくて企業の方と一緒に何かをするということというのも企業の方、学生、もしくは高専の教員に交じってという形で何か、そういったものの中で新しい鶴岡の将来的なビジョンという、あるいはそういったことを通じて学生が地元の企業を知ってという、この機会も増えればなという思いで今行っております、前回 11 月 24 日に行わせていただきましたが、そういった機会を今後もっと増やしていければという

ここで、商工会議所技術者ネットワークの皆様とも相談しながら次回のイベントを考えていきたいというふうに思っております。以上です。

**【皆川委員】**

ありがとうございます。

**【神田教務主事】**

続いてアドミッション・ポリシーのことを少し。今回の会、現状の本校の体制についてご提案、改善事項をご指摘いただく場となりますので、今回承りましたご指摘、また改善案については社会情勢に合わせてアドミッション・ポリシー、三つのポリシーを変えていくのが基本となりますので、しっかりと受けとめてまた入学試験委員会、また学校組織委員会等で議論させていただきたいと思えます。ありがとうございます。

**【早坂委員長】**

それでは永澤委員どうぞ。

**【永澤委員】**

私から少しだけ。やはりせっかく優秀な県外の、しかも庄内の優秀な方が入学されて地元には3割しか残らないというのが行政的にもそうですし、産業界にとっても非常になんとかならないかなという思いが皆さん強いと思えます。今、市長の質問にも回答があったように様々な工夫がされているということですので、ぜひもっといいアイデア、工夫がないかといったことをぜひ考えに、改善点として加えていただければなというふうに思っております。



永澤 浩一  
山形県庄内総合支庁長

もう1点、今、政府もそうですが、山形県でも今デジタル化について力を入れようと、日本は少し遅れすぎているのではないかと、しかも国内でも山形県は遅れすぎているのではないかというふうな指摘もあります。そうした中でデジタル力を上げていかなければならないということがあると思うんですが、今高専の中で特にそういった点について、ここにあったようにウェザーステーションとか、いろいろ行っているようですが、特に新しい取り組みなんていうのはありましたらご紹介いただけたらありがたいと思っています。

**【神田教務主事】**

ありがとうございます。あるとすればプログラムとしてデジタル化を進めているわけではないのですが、先程申し上げたように前期全てを遠隔授業にしたところで、普段パソコンなどをあまり使わない教員も、ずっと板書で行っている教員も自分でプレゼン資料を作ったりとか非常に皆さんがゼロからすごい勢いでデジタル化に進んだので、学校全体としては後期何があってもすぐに遠隔授業に切り替えられる体制になったので、そこは学校としては進歩したかなというふうに思っています。

あともう一つ先程話をいただいた中で、地域の方と一緒にデジタルに弱いデジタルバイトの講座なんかを地域と連携してやっていければなと思っています。今鶴岡市さんと一緒に行っております旧福栄村の養蚕プロジェクトのところも、地元の農家の方とデジタルバイトのところは行っているのですが、そういうデジタルバイトのところも高専として地域と一緒に乗り越えていければなと思っています。

**【早坂委員長】**

よろしいですか。では西脇先生どうぞ。

#### 【西脇委員】

いろいろと説明していただきありがとうございます。いろいろ感想とかお願いとかあるんですけども、今はここまでの質問ということでしたので、それについてお願いいたします。



西脇 庸  
田川地区中学校長会会長

8月19日に庄内若者定着促進会議ということで参加させてもらいました。そこに皆川市長様も高橋校長先生も同席なされたわけですけども、そのときに160名中60名が進学、100名の就職のうち地元就職者は30名ということで、それを70名ぐらいに増やしていきたいというお話をなされたという記憶を持っています。今日も同様の発言をしてくださいましたけれども、ぜひそれが実現となるように私冊子を読ませてもらって、何も分からなかったものですから、目を通させてもらいましたが、そういう努力をいろいろなところでなさっていると読み取れて、本当に地元愛が強い私としては感謝、感謝でございます。ありがとうございます。

あのとき上野会長がやはり待遇面だということをおっしゃって、お金、賃金をアップしなければ定着はしないというふうなことをおっしゃっていたのが非常に印象に残っていて、そのような要求も地元企業に6社ほどだったかながなっていて実現しているという話も書かれてあったので、そういったことがますます促進されればいいと思います。

この間、先日の11月28日の山形新聞に

高専のこのような特集が載っていて、求人倍率が14.5倍だと書かれておりましたし、今日の資料の中にも過去3年間の倍率が書かれてあります。14.5倍ということは複数人を要求する企業もあるでしょうから、ですがかなりの数の企業が学生を選べるということになっています。ところが外に流れてしまう、7割以上が外に流れてしまう、そのようなことについてやはり賃金格差というのが大きなネックになっているのかなと個人的には思うのですが。その際になぜ学生さんがその企業を選んだのかという調査は貴校ではなさっていらっしゃるのでしょうか。そういったことをやはり積み上げて分析して対応していくことが地元就職者を増やしていく一手になるのではないかなと思ひまして質問させていただきます。以上です。

#### 【高橋校長】

私は総合的なデータではございませんけれども、ある事例だけ申し上げますけれども、今西脇先生がおっしゃいましたように待遇面でこの庄内地域をあるいは山形を代表する養豚業ですが、高専生の初任給を20万円にいただきました。養豚業でなぜ高専生が必要かということ、餌をやるのも豚舎の掃除も自動化したいという要望があって、それで高専生がほしいんだということで3年前私のところに相談がありました。やはり待遇面をきちんとしないとだめですよと言ったら20万円という価格を提示してくださいました。そしてその年から毎年1人ずつその養豚業者に入社するようになりました。

ですから、どうしても高専生が欲しいというのであれば、何かそういう具体的な対策を講じていただかないと難しいかなと思います。何かデータはありますか。

### 【小野寺学生主事】

今ないので、今ご指摘ありました地元就職した学生、卒業生の追跡調査、これ、非常に解決の一步、検討の一つになろうかと思えますので、ぜひ検討させていただきたいと思えます。ありがとうございます。

### 【早坂委員長】

よろしいですか。では、齋藤委員。

### 【齋藤委員】

今皆さん方からいろいろな卒業してから就職の話で地元が少ないだとかいう話が出ていて、私も実はそういうふうには思いません。



齋藤 満  
鶴岡高専峰友会 副会長

ただし、就職を最初にして帰ってくるUターンというのが、学校の方にはおそらく断ってこないと思うんです。「私帰ってきてしまう」とわざわざ報告に来る学生はいないと思うんです。学生というか卒業生はね。

ですから私地元にいる限りでは割と向こうに行っても戻ってきてこちらで活躍している学生、学生というか卒業生ですね、一般社会人になるわけですが、結構多いのではないかなという気がします。ですから、世の中、鶴岡市、酒田市、庄内地域、山形県内に鶴岡高専卒業生だよという人はそんなに少ない数ではないのかなという気がするんです。ただ、データとしてはとっていないと思うんですが、そんな気がします。

あと、説明の中での的を外れるかもしれませんが、卒業生の就職アンケート1-1で説明した英語力がえらい少なくて、突出し

てどんと緑色が多かったですよね、これ16とかってこの単位は何ですか。16社から回答が来たということですか。英語力がダメだよというのは。

### 【神田教務主事】

そうですね。複数回答なので、16社の方からということですよ。

### 【齋藤委員】

16社ということですか。何社の中の16社なんですか。突出して大きいですね緑色が。このとおり英語力がだめだということでしょうけれども。

### 【神田教務主事】

もう1回正式な単位は確認いたしますけれども、企業様からの回答が少なかったアンケートになりますので・・・。

### 【齋藤委員】

とにかく英語力が高専の卒業生はだめだということでしょうから。

最後に「おやっ」と思ったのが3-2です。これは何かに関係あるのかなと思うのですが、課外活動指導の中で、実は私卒業生なので一番感じたと思うんですが、過去から比べるとずいぶんと数が少ないですね。というふうに感じていますし、実際そうであると思うんです。最近何かありましたか。

### 【小野寺学生主事】

私からお答えをさせていただきます。現在本校運動部が16、文化部が10となっておりますが、やはり安全面での管理というのが非常に高い要求を求められておまして、顧問を的確に配置することができる、今の段階では結構ギリギリの数となっております。クラブによっては顧問が1人だったり3人のところもあります、休日対応の業務負担の軽減だったり、そういったところを鑑みると現状これ

以上は増やせないかなというところがあり、新しく新設するとすればあるクラブとクラブを統合させてまた新しいクラブという形で整理していったら、数はこれ以上増やせないかなと。

他高専と比べると本校は多くもなく少なくもない、ちょうど真ん中ぐらいの数なのですが、確かに実は私も卒業生なのですが、昔に比べると少なくなっているところはあると思うんですけども、現状適切に管理するという意味では全体で26のクラブが今は適切に管理運営できるというところで回しております。

**【齋藤委員】**

なぜこんなことを言ったかということ、割と私も体育系なものですから、部活とかクラブ活動の縦の線で就職、ないしはそれに誘われてとか、「あなた、どうですか」ということが割と社会に出てから多いのかなという気がするんです。現役に指導したり接触したりしたときに自分の会社にどうだろうというような話が割とあるものですから、そういう話がスポーツを通じてというのが結構あるので、少し足りないのかなと思ったものですからそういう話をさせていただきました。

**【高橋校長】**

最初の質問のUターンの件で少し私からコメントさせていただきます。4、5年前からやはりUターンで戻ってきている卒業生が多いのではないかとということで、少しずつではありますが各企業にデータを見せてくれるようお願いをしております。まだ数は十分ではありませんが、やはりかなりの数があるみたいです。それが分かりましたので、本校のホームページに卒業生のための欄というのがありまして、そこをクリックする

とUターン情報が出てくるように4、5年前からしております。あと山形銀行さんと連携をさせていただいて、山形銀行さんが、OBで県外に出ている方々の戻ってきたいという情報があったときにそれを優先的に斡旋するような仕組みを作って連携しながらなるべくこちらに卒業生を戻すような仕組みづくりはさせていただいております。

**【齋藤委員】**

よく分かりました。ありがとうございます。

**【早坂委員長】**

熱心なご意見どうもありがとうございました。

少し休憩を取りたいと思いますので、午後3時から再開させていただきたいと思います。どうぞよろしくお願ひしたいと思います。

( 休 憩 )

**【早坂委員長】**

では、第2部の方にまいりたいと思います。続きまして、基準4の方につきまして、田中事務部長からよろしくお願ひいたします。

**【田中事務部長】**

事務部長の田中から説明させていただきます。よろしくお願ひします。本校の財政基盤と管理についてご説明いたします。

まず本校の財政基盤であります、本校は独立行政法人国立高等専門学校機構の構成機関であります。したがって、全国の51ある国立高専をまとめている高専機構



田中 基久  
事務部長